

純正ミラー交換タイプ/ドライブレコーダー機能付き

デジタルルームミラー 【取扱説明書】

MDR-A003A / MDR-A003B

この度は本製品をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

この説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

なお、お読みになった後も大切に保管してください。



MAXWIN

お 知 ら せ

本書で使用している画像は開発中のイメージ画像の為、
実際の製品とは異なる場合があります。

記載内容に不備がある場合は、
新しい取扱説明書を公開している場合がございます。

**取扱説明書の最新バージョンは、
以下のURLからご確認いただけます。**

<https://maxwin.jp/download/131040/>



※取扱説明書のファイルは
PDF形式になります。

目 次

■使用上のご注意	1
■安全上のご注意	4
■付属品の確認	7
■取付位置の確認	8
■各部の名称 / 取付時のご注意	9
■取付作業の前に	10
■取り付け前の準備	11
■デジタルルームミラー本体の取付	12
■電源ケーブルの取付	13
■フロントカメラを取り付ける	14
■リアカメラを取り付ける(MDR-A003A)	16
■リアカメラを取り付ける(MDR-A003B)	17
■リアカメラ中継ケーブルの引き回し例	18
■取付完了後の確認	19
■microSDカードの挿入・取り出し	20
■電源のON/OFF	21
■ディスプレイ表示	23
●操作画面	23
●表示カメラ切替	24
●表示切替	25
●アングル調整	27
●ディスプレイの輝度及び音量の調整	27
●駐車アシスト画面	28
■メインメニュー画面	29
■運転支援機能	30
●運転支援機能について	31
●運転支援機能(ADAS)	33
●運転支援機能(BSD)	37

目次

■録画設定	41
●駐車監視録画方式について	42
●駐車監視モードの動作	42
●駐車監視モードの保護電圧	42
●駐車監視モードの一時停止	42
●タイムラプス録画の注意点	42
●Gセンサー感度	43
■録画モード	43
●常時録画	43
●緊急録画	44
●駐車監視録画(衝撃検知)	45
●駐車監視録画(タイムラプス)	45
●駐車監視録画(タイムラプス+衝撃検知)	46
■システム設定	47
●設定一覧	47
●明るさ設定について	48
●リアカメラ表示設定	48
●リバース連動機能設定について	50
●駐車アシスト線調整方法	50
■再生モード	51
■パソコンで再生する	53
■専用ビューワーソフトについて	55
■その他	56
■製品仕様	58
■よくある質問	59
■ファームウェアについて	60
■商品保証書	61

使用上のご注意

本機についての注意事項です。必ずお読みください。

- あらかじめ死角範囲を確認してください。リアカメラには死角があります。また通常のルームミラーとは後方の見え方が異なります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。
- 運転前は、必ずミラー状態で、ドライビングポジションを取り、車両後方が見えるようにミラー本体の位置合わせを行ってください。
- ミラーとカメラの取付位置の違いにより、目が疲れたり、対象物の大きさが異なって見える場合があります。
- 外部環境の乱反射により画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 夜間や暗い場所、照明の下などでは、モニターの映像と実際の色味が異なることがあります。
- 映像がはっきり視認できないときは、ミラーとしてお使いください。
- サンルーフ装着車の場合、サンルーフから日光がミラーに当たり見づらいときはシェードを閉めるか、ミラーとしてお使いください。
- LED光源を使用した照明が映ったときは、映像がちらつく場合があります。
- フロントカメラ映像を表示したまま運転しないでください。
- 本機は常時記録型の映像を記録する装置です。ロックファイル(衝撃検知)も記録できますが、すべての状況において映像が記録できることを保証したものではありません。

※以下の場合などは、映像の記録ができないことがあります。

- 1.本機にmicroSDカードを挿入していない場合
- 2.本機からmicroSDカードを抜いた場合
- 3.本機の仕様に適合するmicroSDカード以外を使用した場合
- 4.記録した古い映像が、新しい記録によって消されて(上書きされて)しまった場合
- 5.大きな事故や水没などで本機及びmicroSDカードが損傷を受けた場合
- 6.大きな事故の場合などでバッテリーと本機との電源コードが断線した場合
- 7.低速で衝突、または、相手車両との相対速度が小さい状態で衝突した場合
- 8.自車両、相手車両の衝突緩和箇所(バンパー・ドア・タイヤボックスなど)に衝突した場合

※7.8.バンパー・ドア・タイヤボックスなどで衝撃が緩和されるので、見た目より衝撃が発生しないことがあります。エアバックが開かないような低衝撃の事故は検知できない場合があります。

- 9.自車両に対して相手車両が軽い、または、相手が人や自転車の場合
- 10.相手車両の側面をこするように衝突した場合

※9.10.相手車両が軽かったり(自動車対人、自動車対自転車など)、相手車両が回転すると、衝突時の衝撃が受け流され、自車両への反発の衝撃が小さくなります。

- 11.雪道や凍結路で急ブレーキをかけた場合

※雪道や凍結路では、タイヤと路面との摩擦が少なく、小さい衝撃でもスリップしますので、Gセンサーでの検知が困難になります。

- 12.衝撃が弱く、本機が検知するように設定されたセンサー感度に満たない場合
- 13.本機の本体が固定されていないなど、本機の取付状態に問題がある場合

使用上のご注意

- 本機は録画状態で使用することにより映像を記録しますが、すべての状況において映像の記録を保証するものではありません。
- 本機は事故の検証に役立つことも目的の1つとした製品ですが、被写体のプライバシーなどの権利を侵害する場合がありますのでご注意ください。また、本機をイタズラなどの目的で使わないでください。これらの場合には弊社は一切責任を負いません。
- 故障や本体の使用によって生じた損害、及び記録された映像やデータの損害、破損による損害は、法律上の請求の原因の種類を問わずいかなる場合においても本製品の使用または使用不能から生じる損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失又はその他の金銭的損害を含む）に関して、弊社は一切の責任を負わないものとします。
- 録画された画像は事故の証拠として効力を保証するものではありません。
- 録画条件により、録画のコマ数が変わる場合があります。
- 運転者は走行中にモニターを注視したり操作しないでください。前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。操作する場合は安全を確保したうえで行うようにしてください。
- 本機が起動中にmicroSDカードを抜かないでください。
microSDカードが破損し、映像を記録できなくなるおそれがあります。microSDカードの破損で映像が記録できない件については、弊社は一切責任を負いません。
- 本機は常時記録型の映像記録装置です。microSDカードの記録がいっぱいになると古い映像から順に消して新しい映像を記録（上書き）します。事故などでデータが必要な場合は、速やかに車両のエンジンキーをオフにし、microSDカードを抜いてパソコンに保存するなどの対応をお願いいたします。
- 車両バッテリーの劣化などにより、電源電圧が低い場合には、駐車録画は動作しないことがあります。
- 記録した映像を残しておきたい場合は、パソコンのハードディスクにコピーしておくなどの対応をお願いいたします。
- 本機以外で記録した映像を見るためには、パソコンおよびSDカードリーダーライターが必要です。必要な機器は、別途ご準備ください。
- LED式信号機は目に見えない速さで点滅しているため、本機で撮影すると、点滅して撮影される場合があります。信号が映っていない場合は、前後の映像や周辺の車両の状況から判断願います。LED式信号機が映らない件について弊社は一切責任を負いません。

使用上のご注意

【microSDカードについてのご注意】

下記仕様のmicroSDカードをご利用ください。

記録媒体:microSDHC／microSDXCカード

対応容量:8～256GB(推奨容量:64GB以下)

スピードクラス:Class10

バスインターフェーススピード:UHS-I, UHS-II

※上記仕様を満たしていてもご利用頂けない場合があります。あらかじめご了承ください。

※容量が256GB以上のmicroSDXCカードは、本機では使用できません。

※本書では、上記のメモリーカードを「microSDカード」と表記しています。

- 記録媒体の仕様をご確認の上、必要に応じてご準備ください。仕様に合致していても動作しない可能性がありますのでご了承ください。
- 安心してご利用いただくために、microSDカードは1カ月に1回はフォーマットしてご利用ください。microSDカードは消耗品です。寿命がありますので定期的な交換をお勧めします。
- 電源をONにした状態や駐車監視モード中にmicroSDカードの抜挿しを行わないでください。microSDカードの破損や録画データの破損の原因となります。
- microSDカードをフォーマットする際は必ず本機で行ってください。
- パソコンによるmicroSDカードのフォーマットは行わないでください。本機が正常に動作しなくなる場合があります。
- microSDカードは指定した方向へ正しく入れてください。無理に誤った方向に入れた場合、microSDカードや本機の故障の原因となります。

【駐車監視についてのご注意】

- 駐車監視モードは車両の常時電源を使用しているため、車両バッテリーへの負荷がかかります。定期的に車両バッテリーの点検を行なってください。
- 次の方は車両バッテリー上がりの原因になりますのでご使用を控えてください。
(毎日乗車しない・1日の走行が1時間以下・車両バッテリーを1年以上使用している)
- 駐車監視機能の使用後は車両バッテリー電圧が低下した状態のため、必ずエンジンを始動し、車両バッテリーの充電を行ってください。車両バッテリー上がりの原因となります。
- 車両バッテリー上がりに関して、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 長時間録画を行う場合、microSDカードの容量や本体の設定により、録画データが上書きされる場合がありますのでご注意ください。

安全上のご注意

この取扱説明書及び製品では、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。表示と内容をよくご確認ください。



警告

この表示を無視して誤った取り扱い方をすると、死亡や重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取り扱い方をすると、傷害または家屋、家財など損害が想定される内容を示しています。

警告

■ **本機はDC12Vマイナスアース車専用です。**

12V車以外では使用しないでください。

■ **本機を分解したり、改造しないでください。**

事故、火災、感電の原因となります。

■ **電源コードの被膜を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にしないでください。**

電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。

■ **音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。**

事故、火災、感電の原因となります。

■ **ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア数)のヒューズを使用してください。**

規定容量を超えるヒューズを使用すると事故、火災、感電の原因となります。

■ **万一、異物が入った、水がかかった、煙が出る、変な匂いがするなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げになった販売店に相談してください。**

そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。

■ **運転者は、走行中にmicroSDカードの抜き差しやスイッチの操作をしないでください。**

前方不注意となり事故の原因となりますので、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

■ **本機が衝撃を検知するかを確かめるために故意に危険な運転をすることなどは、絶対にしないでください。**

■ **機器内部に水や異物を入れないでください。**

発煙、発火、感電の原因となります。

■ **雷が鳴り出したら、本機に触れないでください。**

落雷により、感電の危険性があります。

■ **本機を使用するために、禁止された場所に駐停車しないでください。**

■ **microSDカード挿入口に異物を入れないでください。**

火災や感電の原因となります。

安全上のご注意



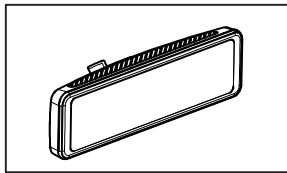
- 本機の取り付け時は、安全のため必ず専門の業者に依頼してください。取り付けには専門技術が必要です。
- 車検証シールを貼り替えの際は、カメラの撮影範囲内に車検証シールを貼らないようにしてください。
- 本機を車載用以外は使用しないでください。
感電や怪我の原因となることがあります。
- 本機は、運転時の状況を記録することが目的です。その他の目的では、使用しないでください。
- 本機に、強い力やショックを与えることはしないでください。
火災、故障のおそれがあります。
- 夏場などに長時間、直射日光が当たった場合は、素手で触らないでください。
直射日光が当たった場合などは、高温になり、火傷をする可能性があります。
- microSDカード挿入口に手や指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。
- フロントガラスのお手入れの際は、本機及びコードを強く引っ張らないでください。
本機がはずれるおそれがあります。
(はずれた場合は、お買い上げの販売店にご相談ください)
- クリーナーなどのスプレーや水分などを本機にかけないでください。
両面テープが剥がれカメラが脱落するおそれがあります。

安全上のご注意

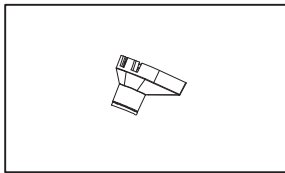
- 極端な高温や低温でのご使用は、誤動作や故障の原因となります。特に夏期は車内が高温になることがありますので、窓を開けるなどをして温度を下げてからご使用ください。
- 本機には必ず仕様に適合したmicroSDカードをご使用してください。
- microSDカードを挿入口から挿入してお使いください。
microSDカードを挿入しないと、本機は動作しません。
- microSDカードを本機に挿入する場合、向きに注意してください。
- microSDカードには本機で記録されるデータ以外を保存しないでください。映像や画像が正しく記録されないことがあります。
- カメラレンズの特性により、画面に映る人の障害物は、実際の位置や距離と異なって見えることがあります。
- 本機を強くたたく、ものをぶつけるなどの強い衝撃をあたえないでください。故障や破損の原因となります。
- 本機への直火やドライヤーなどの急激な温度変化を与えると、故障や破損の原因となります。
- 本機をアルコール、ベンジン、シンナー、ガソリンなど揮発性の薬品類で拭かないでください。
変形や変質、破損の原因となります。
- 磨き砂などが配合された洗剤で拭かないでください。キズの原因となります。
- カメラ・レンズ部分が汚れている場合は、水を含ませた柔らかい布などで軽くふいてください。
乾いた布で強くこするとキズの原因となります。
- フロントガラスに水滴がついているとき、汚れているときなどは、撮影した映像が見つらくなる場合があります。
- 太陽光やヘッドライトなど高輝度の被写体がカメラに映ると、映像素子特有のブルーミング現象※が発生したり、その光源の中心部分が黒く映ることがありますが、カメラの異常ではありません。
※ブルーミング現象:強い光源の周辺や、非常にコントラストの強いシーンを撮影した場合に撮像素子が強い光を受け、飽和して周囲の画素にあふれ出す現象です。

付属品の確認

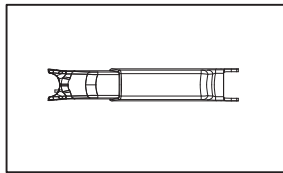
■構成部品



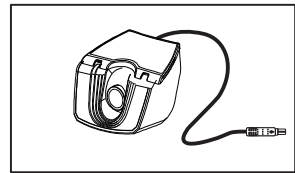
デジタルルームミラー
本体



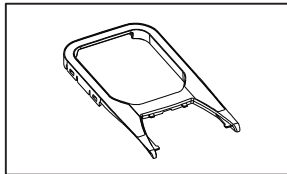
取付ブラケット



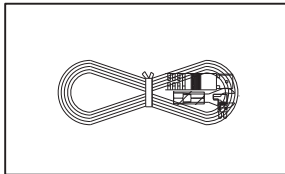
ケーブルカバー



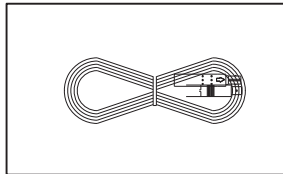
フロントカメラ



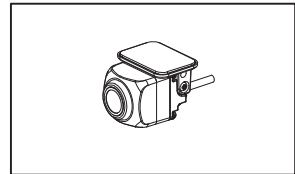
取付ステー
(フロントカメラ用)



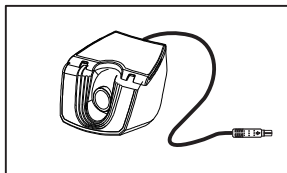
電源ケーブル



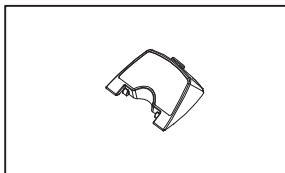
リアカメラ
中継ケーブル



リアカメラ
※MDR-A003A付属



リアカメラ
※MDR-A003B付属

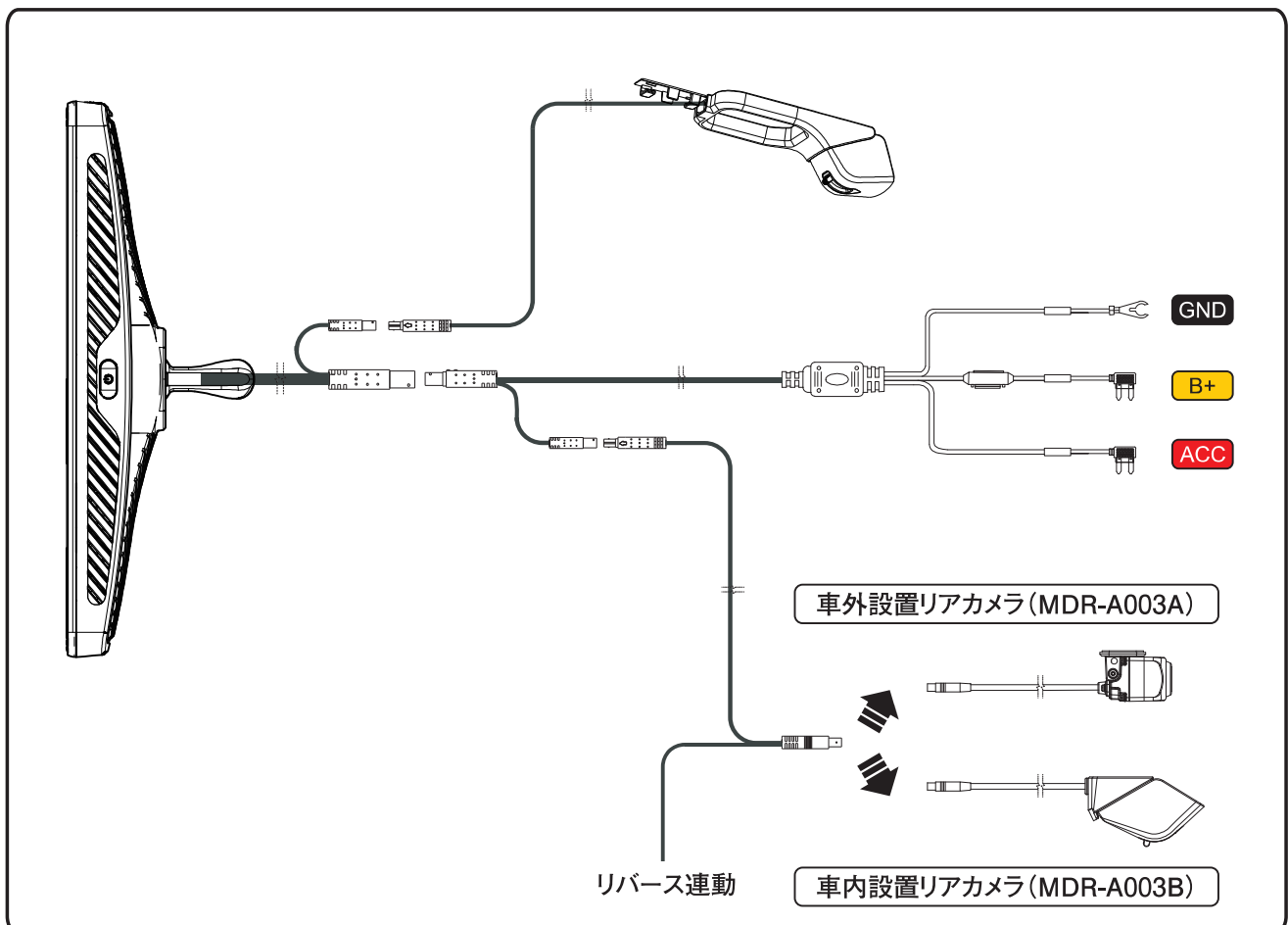


角度調整アダプター
※MDR-A003B付属



取扱説明書(本書)

■配線図



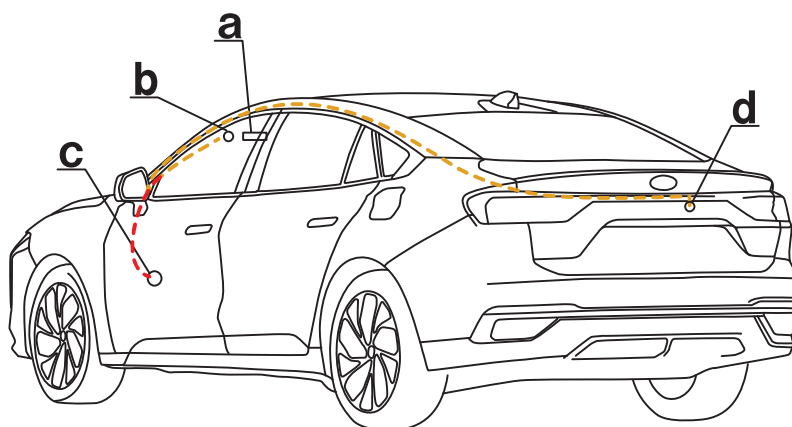
取付位置の確認

本製品の取付位置はお車により異なります。

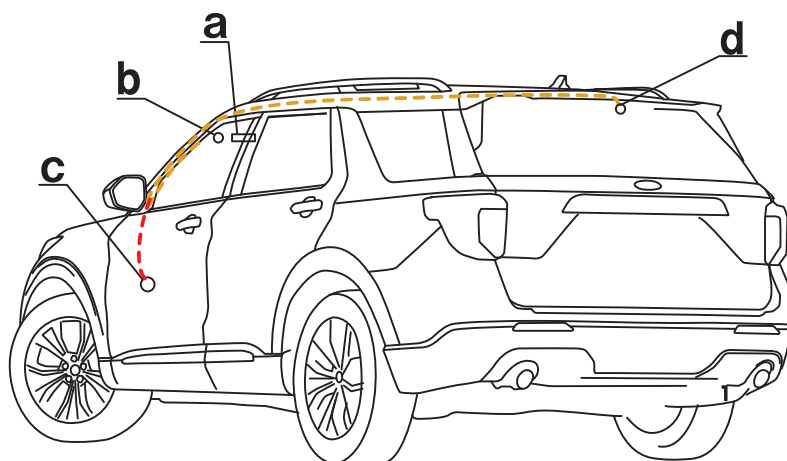
また、リアカメラの仕様によって取り付け方法や取付位置が異なります。

作業を始める前には、お使いのお車の取付位置を確認してください。

MDR-A003Aの取付図

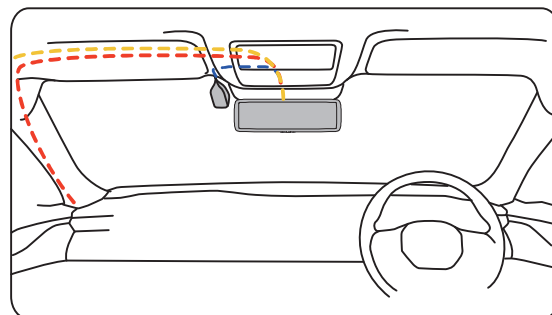
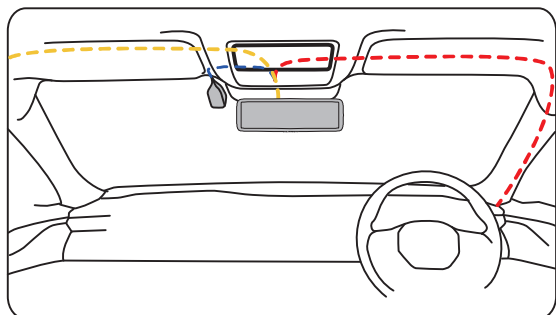


MDR-A003Bの取付図

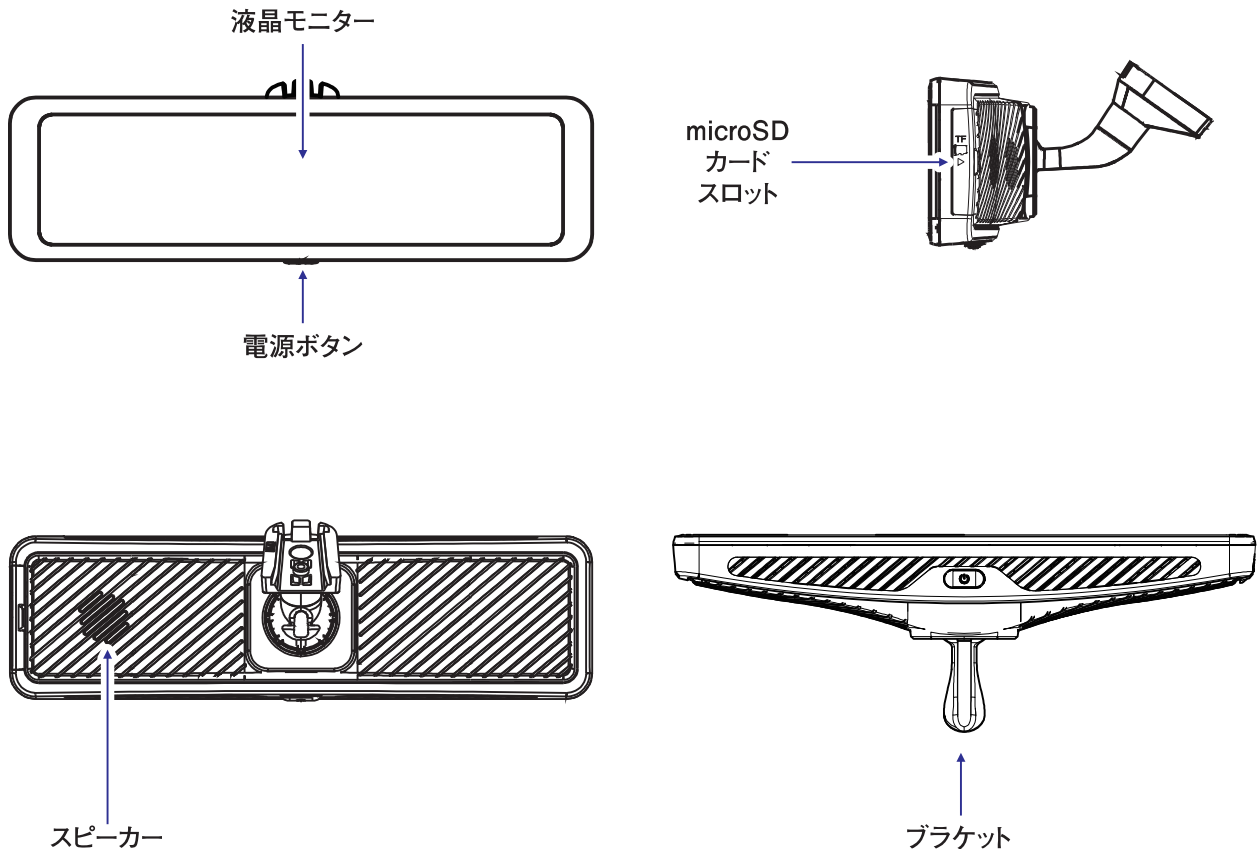


- a. 純正ルームミラーを取り外し、本機デジタルルームミラーを取り付けます。
- b. フロントウィンドウの内側に、フロントカメラを取り付けます。
- c. 電源ケーブルの各配線は車両側配線(ヒューズ電源)に接続します。※
- d. MDR-A003Aの場合: リアカメラをナンバープレート上部に取り付けます。
MDR-A003Bの場合: リアカメラをアウインドウの内側に取り付けます。

※ヒューズボックス位置(運転席側面/助手席側面)によって、フロントピラー部の配線方法が異なります。



各部の名称



取付時のご注意

- 安全な場所に駐車して作業をしてください。
- 運転操作や車の可動部に干渉しないように取り付けてください。
- ネジやシートレールなどの可動部にケーブルを挟み込まないようにしてください。
車体に穴をあける時は、パイプ、タンク、電気配線を傷つけないように注意してください。
- 両面テープを使用して固定する時はアルコールクリーナー等で取付面に付着している油分などを取り除いてください。
- 温度が低い時は、接着力を上げるためドライヤー等で暖めてから作業を行ってください。
- 両面テープは貼り直しをしないでください。極度に接着力が低下します。
- 先に仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから取付を行ってください。
- 取付後24時間以内はカメラに無理な力をかけないでください。
- 本製品を分解、改造しないでください。保証対象外になります。
- 本製品を動作するには定格DC12Vの電圧が必要です。定格外電圧では動作しません。
複数のモニターや電化製品を多数取り付ける場合は電圧降下する可能性があります。
その際は安定した電源の対策を施してから取付してください。
- 接続した線は必ず絶縁をしてください。ボディーと接触するとショートします。
- リアカメラを取付ける位置は「道路運送車両の保安基準第18条」に適合させる必要がありますので、ご注意ください。

取付作業の前に

■作業の前に

- 異常発生時やお問い合わせはまず、購入された販売店、またはサポートにご相談ください。
お客様による修理/分解は、絶対おやめください。
- 取り付ける前に構成部品をご確認ください。
- 取り付けには、内張り外し道具、養生テープ、布、ドライバー（プラス、マイナス、星形T20）、10mmレンチ、電動ドリル（8.5mm）、ニッパー、ペンチ、カッターナイフ、結束バンド、通線ワイヤー、マスキングテープ、脱脂剤、はさみ、センターポンチまたはマジックペン、保護メガネ、保護手袋が必要です。
- ねじやボルト、ナットの取り付けには、サイズの合う工具をお使いください。

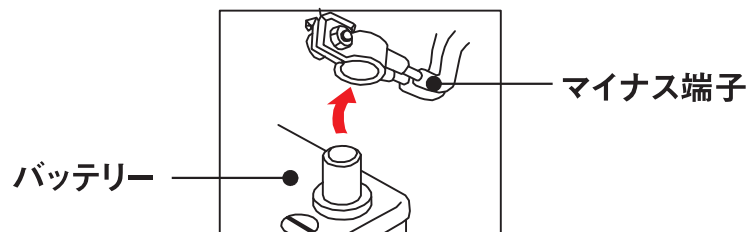
■作業の進め方

- 1.同梱物を確認する
- 2.本取付前に動作確認する
- 3.ミラー本体・フロントカメラ・リアカメラを取り付ける
- 4.本体と各ケーブルを接続する

■本体の動作確認

本取付前、製品が正しく動作するか仮配線して確認してください。

- 1.バッテリーのマイナス端子を外す。



マイナス端子を外す際の注意

- 純正カーナビの暗証番号の再入力が必要です。
- カーナビの設定がリセットされます。
- 時計がリセットされます。
- その他、電子機器の再設定が必要です。

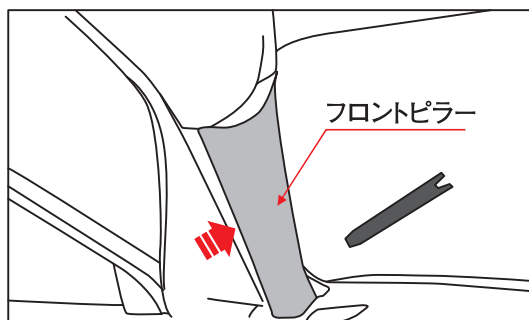
- 2.本体に電源ケーブル、フロントカメラ、リアカメラを接続する。
- 3.電源ケーブルのACC、B+をヒューズボックスに接続し、マイナス端子を車体のアースに接続する。
- 4.microSDカードを装着する。※1、※2
- 5.動作確認する（フロント・リアカメラ録画）
- 6.電源OFFにする。バッテリーのマイナス端子を外し、本取付を行う。

※1.microSDはClass10以上、256GBまでのカードをご利用ください。

※2.microSDカードは本体でフォーマットを行ってください。

取り付け前の準備

1. 取付概要図を参照して、配線側のフロントピラーを取り外します。

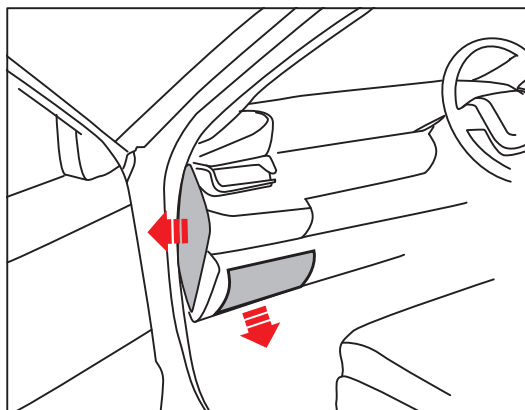


⚠ 注意

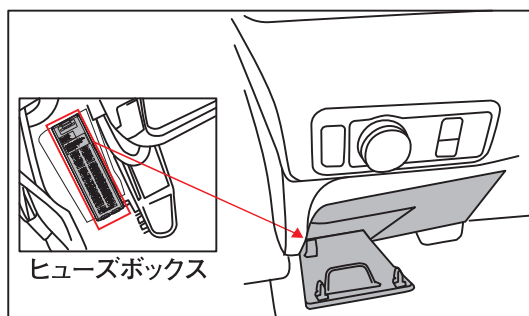
エアバッグの内蔵されている内張りなどの周囲では、十分に注意して作業をおこなってください。

また、エアバッグの内蔵されている部品などを外さないでください。必要な場合には、必ずカーディーラーの指示を受けてください。

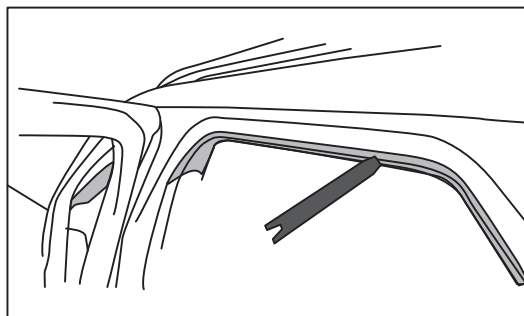
2. 取付図を参照して、車に応じて配線側のアンダーカバーを取り外します。



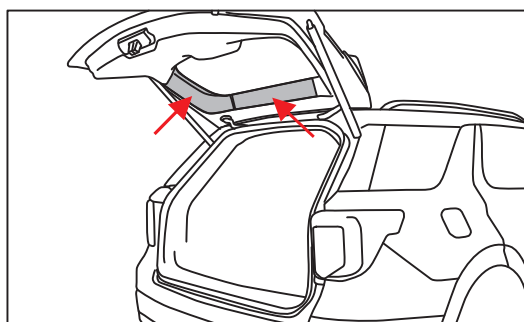
3. 車の取扱説明書等でヒューズボックス、アース位置やヒューズの詳細を確認してください。



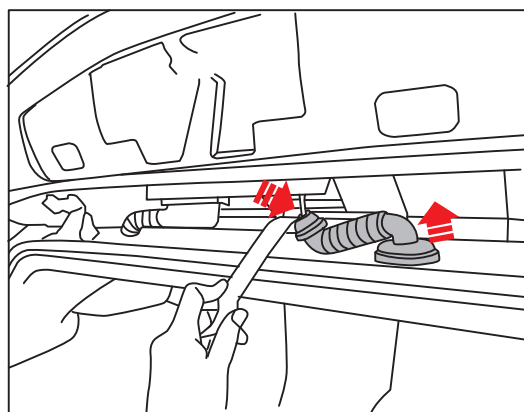
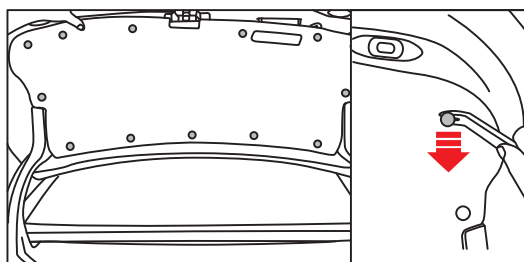
4. ドアを開け、ウェザーストリップゴムを引っ張り、配線しやすいように外します。



5. 取付概要図を参照して、車に応じてバックドアピラーなどを取り外します。

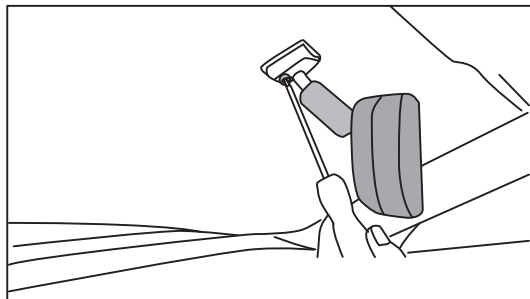


6. 取付図を参照して、テールゲートライニングや車両グロメット（バックドアがある車）などを取り外します。

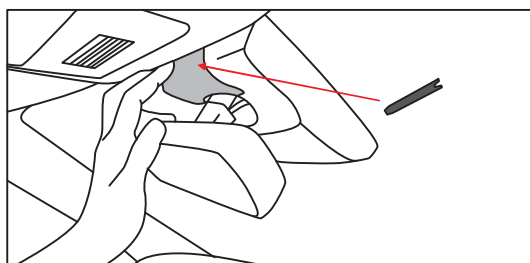


デジタルルームミラ本体の取付

1. 純正ルームミラーがねじで固定されている場合は、取り付けねじを外します。

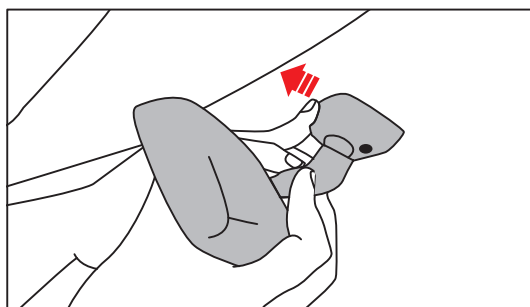


※純正ルームミラーの根元が運転支援機能（自動ブレーキ）のセンサー部などの装備カバー内にある場合は、センサー部のカバーを取り外してください。

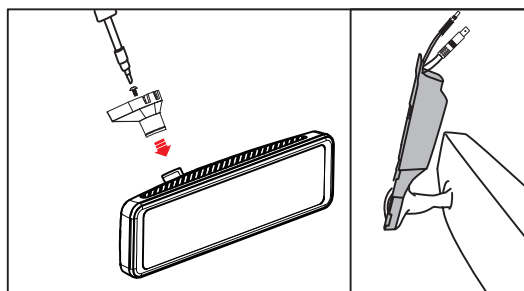


2. 純正ルームミラーを上(天井)方向にずらして取り外します。

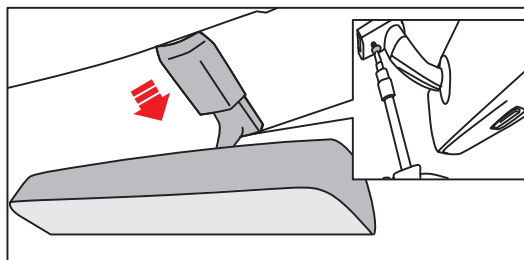
※ツメで固定されている場合は、ツメを下げながら外してください。



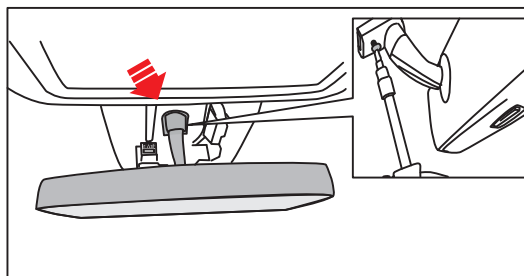
3. デジタルルームミラー本体に付属の取付ブラケットを取り付けます。
ケーブルカバーを利用する場合は、カバーを取付ブラケットに取り付けます。



4. デジタルルームミラー本体を車両に取り付けます。固定ブラケットのねじを締めて固定します。



運転支援装備カバーが無い場合

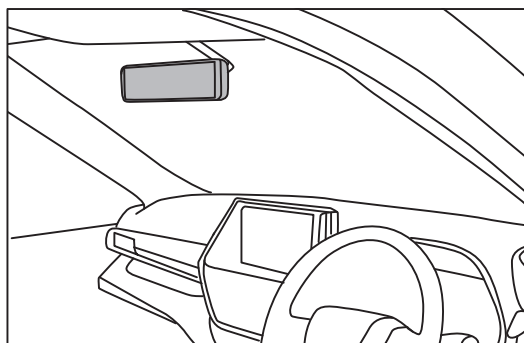


運転支援装備カバーがある場合

⚠ 注意

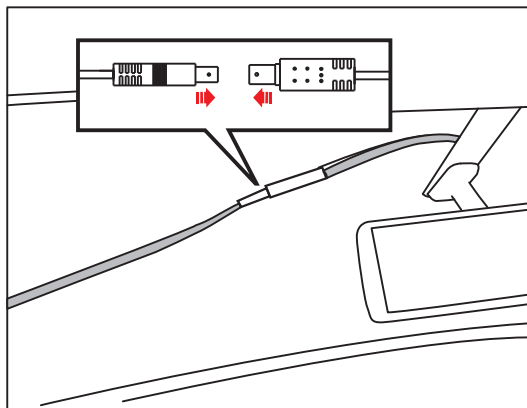
- 付属品以外のねじは使わないでください。
- ネジを締めすぎないようにご注意ください。
- 本機のミラーで後方が見えることを確認してください。正しく取り付けないと事故の原因となります。

5. デジタルルームミラー本体の取り付けは以上で終了です。

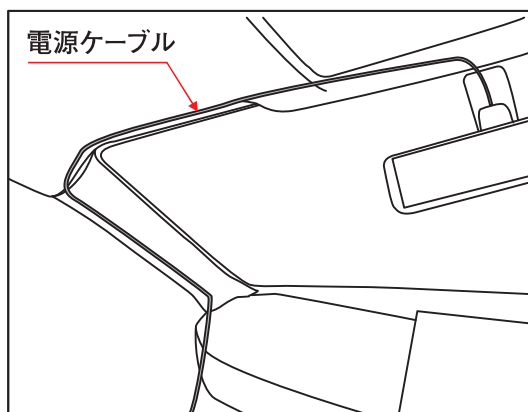


電源ケーブルの取付

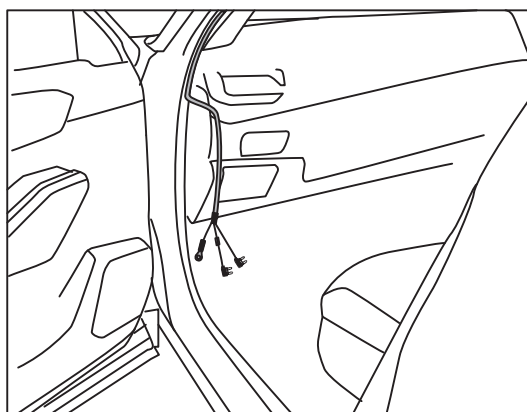
1. 本体の電源のコネクタを電源ケーブルのコネクタにカチッとロックがかかるまで挿入します。



2. 下図のように電源ケーブルをはルーファイニング、フロントサイドピラーライニング内を通します。



3. 下図のように電源ケーブルをヒューズボックス側座席の足元まで引き回します。



⚠ 注意

- エアバッグの動作や運転の妨げにならないように取り付けてください。

4. 電源ケーブルの各配線はヒューズボックス、または下記の車両側信号配線に接続します。

●GND(ボディーアース)線:

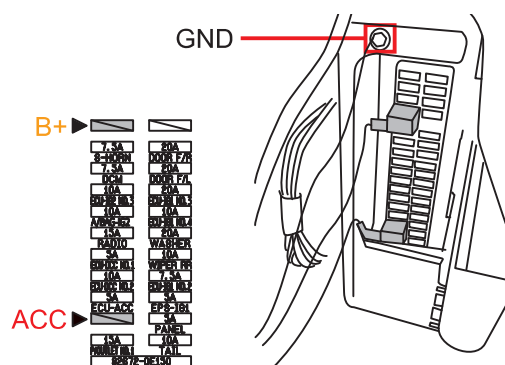
車両金属部分のボルト、ボディーアース配線などに接続します。

●ACC線:

シガーライター配線、オーディオ裏配線から取り出せます。

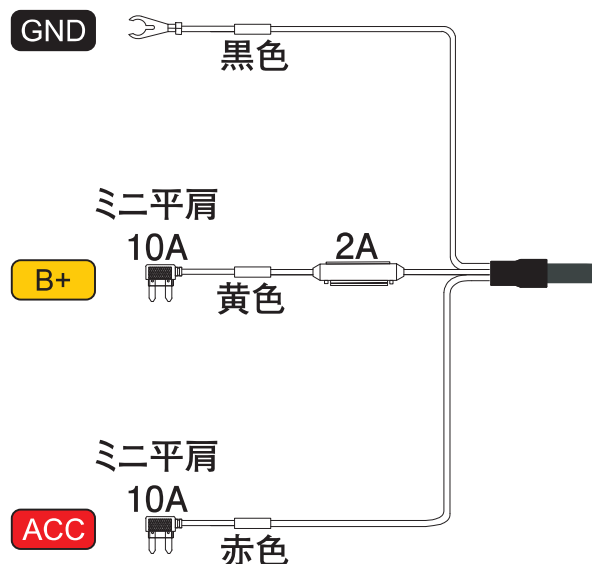
●B+線:

テスターで車のエンジンのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路を確認後、接続してください。



アドバイス

GND端子の締付トルク目安
約10±1kgf



フロントカメラを取り付ける

1. 取付概要図を参照して、フロントカメラを設置してください。

■推奨取付位置

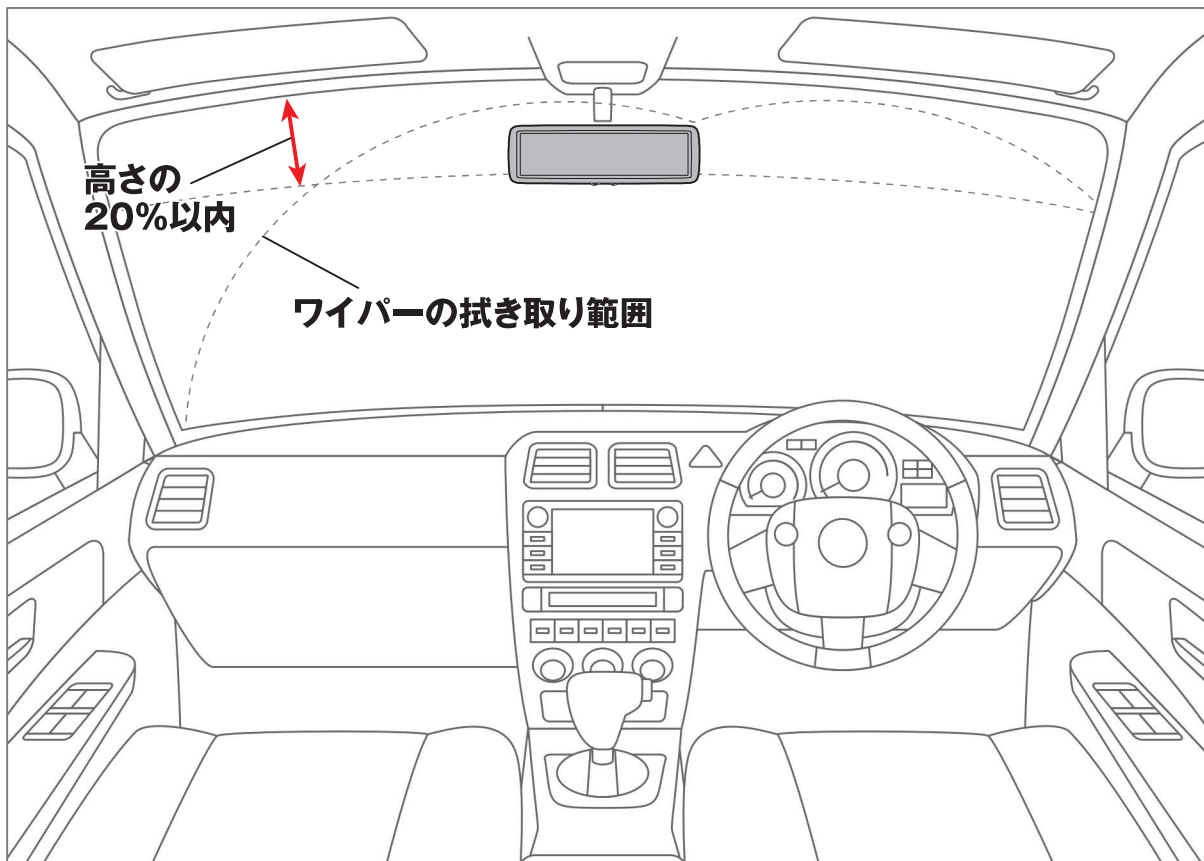
- 道路の水平線が画面の中央になる位置
- 接続ケーブルが無理なく引き回せる位置
- ワイパーの可動範囲にカメラ部がかかる位置
- 車検ステッカーと重ならない位置
- 後方および左右に対して水平方向を向く位置

本製品は道路運送車両法・保安基準第29条のフロントガラス装着規制対象外です。

但し、設置場所はフロントガラスの開口部上端から下方向に1/5以内の場所に限ります。装着後、運転の邪魔にならないか、ルームミラーの操作の妨げにならないか等、十分に確認してから使用してください。

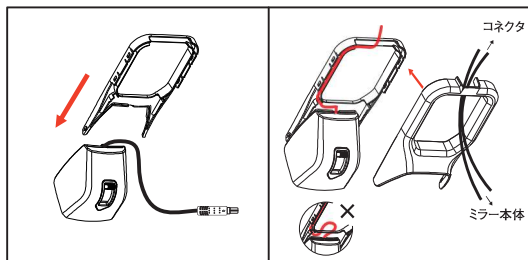
⚠ 注意

- コード類は、エアバッグの動作や運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめてください。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。
- 視界や運転の妨げになる場所へは取り付けないでください。交通事故の原因になります。
- 取付位置表面の汚れ、水分、油分などをよく拭きとってから取り付けてください。
- テレビ、ラジオアンテナやテレビ、ラジオアンテナコードからできるだけ離して取り付けてください。

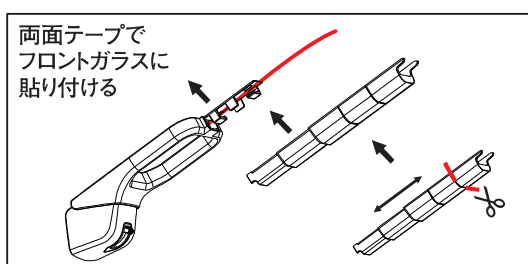


フロントカメラを取り付ける

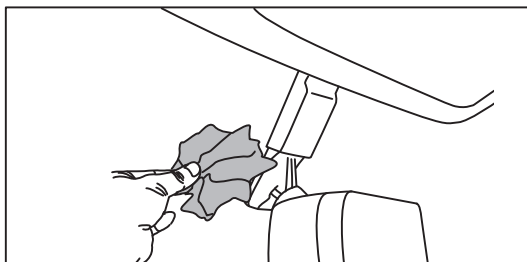
1. 取付ステーの上ぶたを外し、フロントカメラの上ぶたと接続します。ケーブルをステーのくぼみに這わせます。



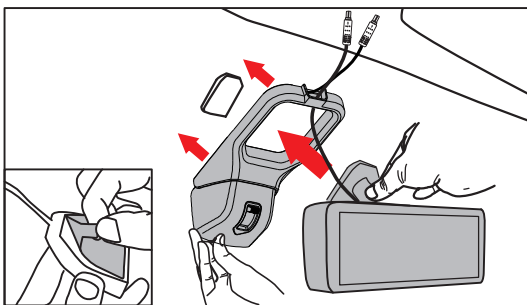
2. ケーブルカバーを使用する場合は適宜カットして取付ステーに接続します。



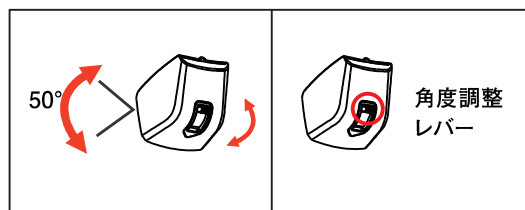
3. 取付面の油分や汚れ、湿気をしっかりと除去します。



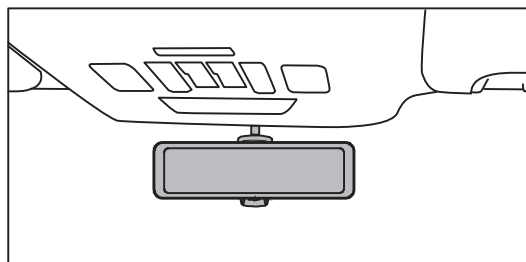
4. 本体の取付ステーをフロントカメラステーにくぐらせてウェッジマウントに差し込みます。フロントカメラのはくり紙を剥がしフロントガラスに貼ります。



5. 角度調整レバーを上下してフロントカメラの角度を調整します。フロントカメラの取り付けは以上で終了です。

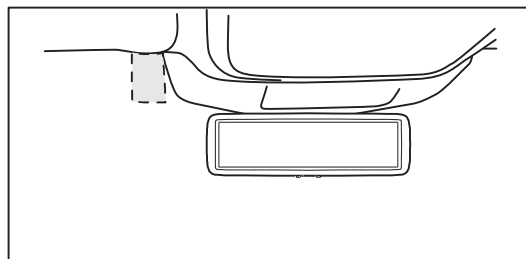


カメライメージセンサーの仕様上、内部発熱により筐体表面や角度調整レバー部分の温度が上昇します。
使用中、使用後しばらくは大変熱くなっておりますので直接触れないでください。

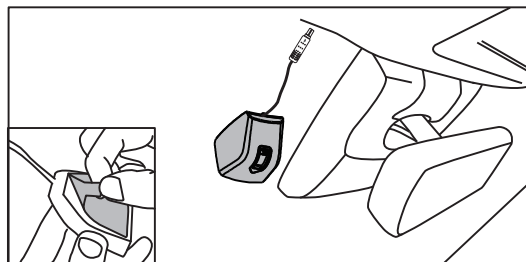


【運転支援装備カバーがある場合】

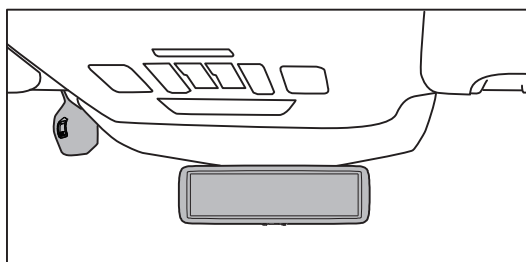
1. フロントカメラの設置場所を決めます。



2. 取付面の油分や汚れ、湿気をしっかりと除去し、フロントカメラのはくり紙を剥がしフロントガラスに貼ります。

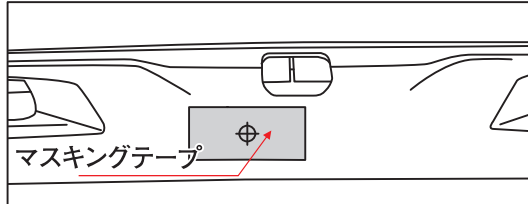


3. フロントカメラの角度を調整します。フロントカメラの取り付けは以上で終了です。



リアカメラを取り付ける (MDR-A003A)

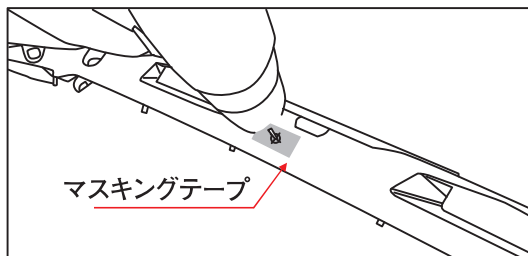
1. P.8取付図を参照して、リアカメラを取り付ける適正な位置を決めてください。
※本機のモニターを確認しながら、リアカメラの角度が地面に対して水平になる、かつ道路の水平線が画面の中央になるように角度の調整が出来る場所に設置してください。



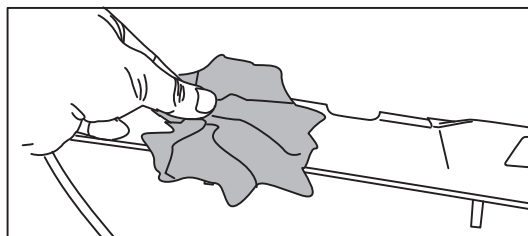
⚠ 注意

- 車載カメラ等の外装品を取り付ける際、国土交通省公布の「外装の技術基準」に準拠した取り付けが必要となります。取付位置に一部制限が発生する場合がありますので、ご注意ください。
- 取り付けや配線の作業時には、安全のため必ず手袋を使用してください。あらかじめ仮接続・仮止めて、取り付け位置を決めてください。貼りなおさないでください。
- 必要な範囲が見える取り付け位置を確認してください。
- カメラが車体やリヤワイパーにあたらないように取り付けてください。
- カメラは車幅に対してできるだけ中央付近に取り付けてください。
- 取付ネジは時々点検し、緩みがある場合は増し締めしてください。

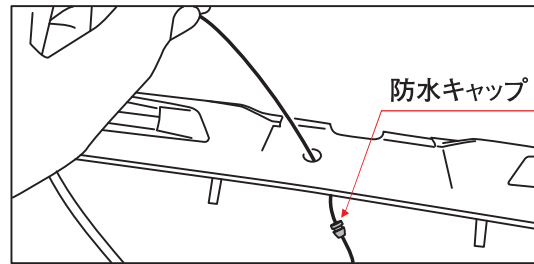
2. 取付面に穴あけ加工します。
※取付位置に養生テープ等のはがしやすいもので仮止めをしてから加工してください。



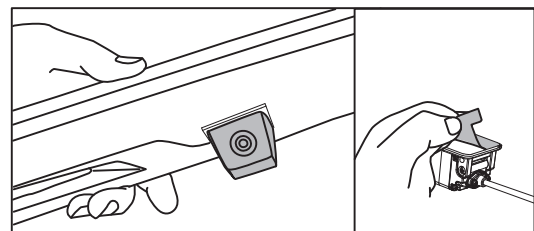
3. マスキングテープを剥がし、取付面の油分や汚れ、湿気をしっかりと除去します。



4. リアカメラのケーブルを穴にゆっくり通してから、必ず防水キャップや防水テープ等で水が入らないように処理をしてください。



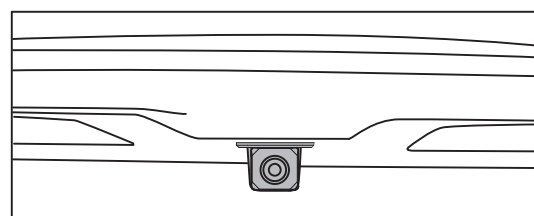
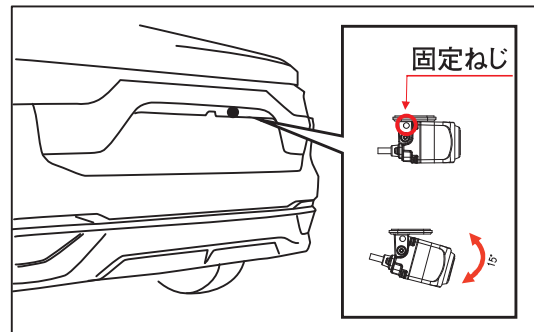
5. リアカメラ取付ステー部の両面テープのはくり紙を剥がしてから取付面に貼ります。



⚠ 注意

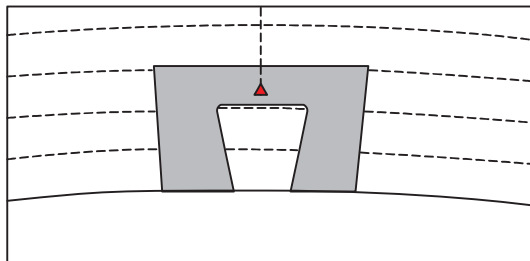
- 気温が低いとき(20℃以下)は、ドライヤーなどで接着面を温めてください。
- 接着面が完全に乾いた状態で作業を行ってください。接着不良などによるはがれの原因となります。
- 取り付けたあと、24時間以内は雨に濡らしたり、水をかけたり、引っ張ったり、無理な力を加えたりしないでください。

6. 必要に応じて市販の+ドライバーでカメラブラケットの固定ねじを緩めて角度を調整します。角度調整後、固定ネジをしっかりと締め付けます。リアカメラの取り付けは以上で終了です。

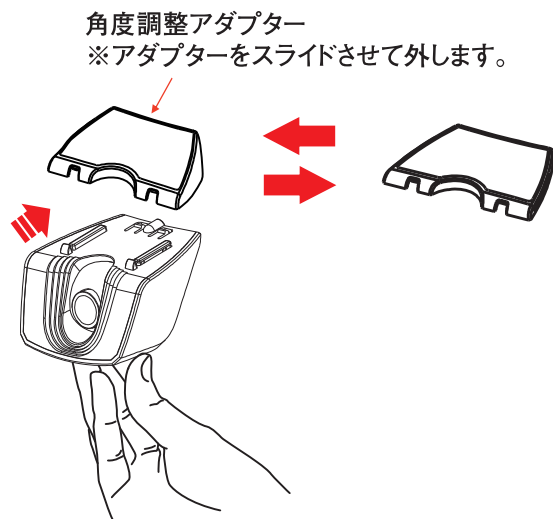


リアカメラを取り付ける (MDR-A003B)

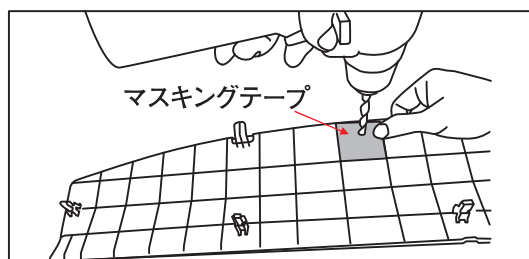
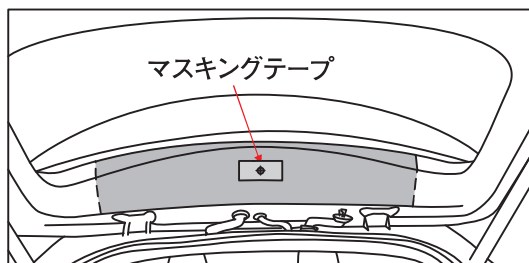
1. レンズ部分が熱線と重ならないよう、カメラを取り付ける適正な位置を決めてください。



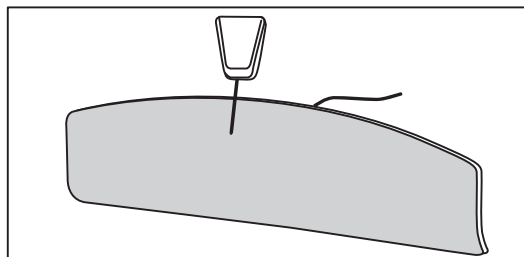
- ※ワイパーの可動範囲にできるだけ地面と水平になるような場所を決めてください。
※リアウィンドウの形状によって、付属品の角度調整アダプターを使用してください。



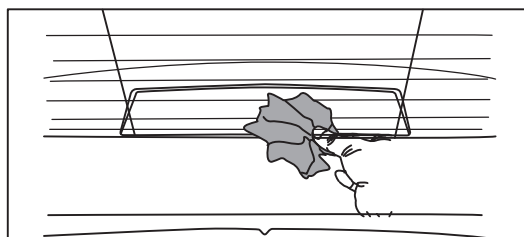
2. カメラ取り付け部に、カメラケーブル配線用の穴あけ加工します。
※加工位置をマスキングテープでマーキングしてから作業を行ってください。



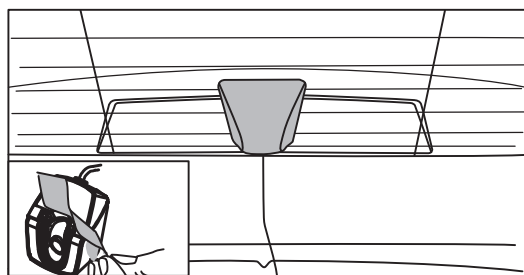
3. リアカメラの接続端子、ケーブルをを穴にゆっくり通します。



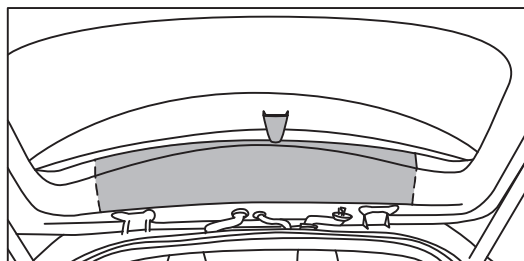
4. 車両側貼付け面の汚れを洗浄し、油脂等を脱脂剤できれいに拭き取ってください。



5. リアカメラ取付ステー部の両面テープのはくり紙を剥がしてから取付面に貼ります。



6. 角度調整レバーを上下してカメラレンズの角度を調整します。
リアカメラの取り付けは以上で終了です。

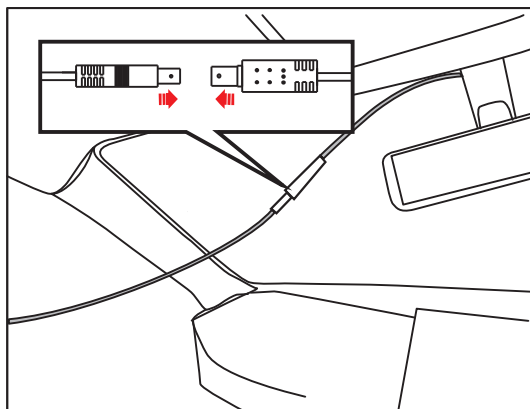


⚠ 注意

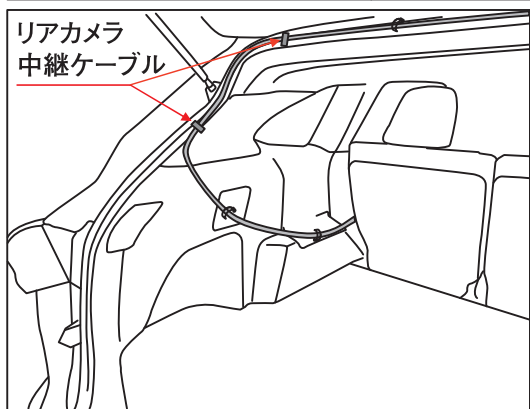
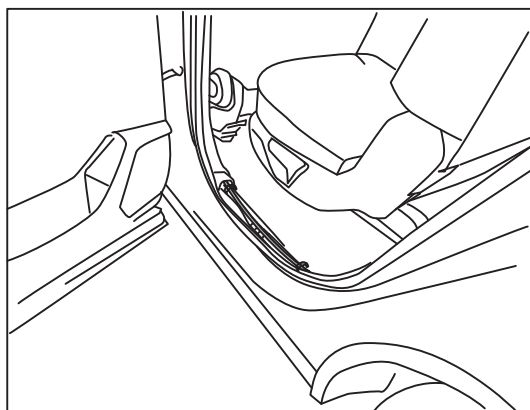
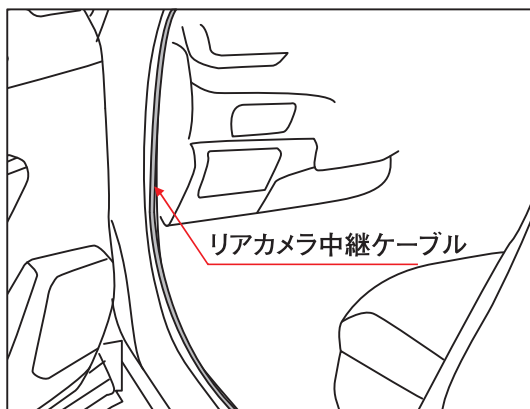
- 取り付けや配線の作業時には、安全のため必ず手袋を使用してください。あらかじめ仮接続・仮止めて、取り付ける位置を決めてください。貼りなおさないでください。
- 必要な範囲が見える取り付け位置を確認してください。
- カメラは車幅に対してできるだけ中央付近に取り付けてください。

リアカメラ中継ケーブルの引き回し例

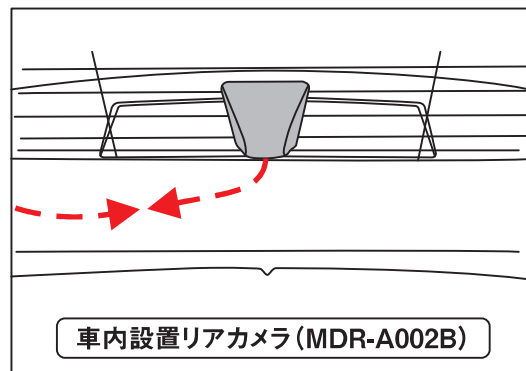
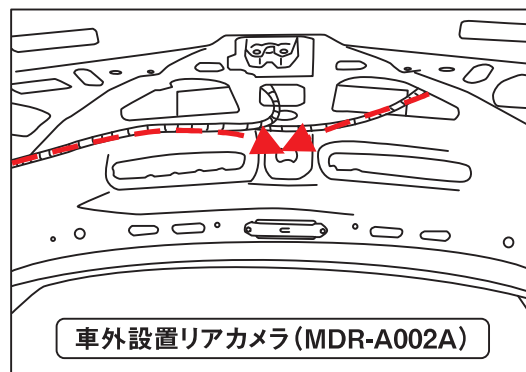
1. リアカメラ中継ケーブルの4PINカプラーをデジタルルームミラー側のコネクタに取り付けます。



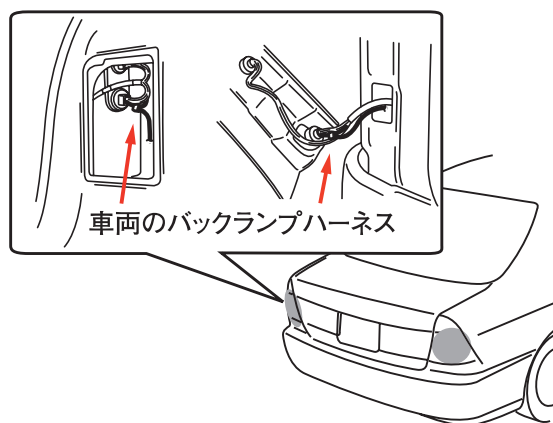
2. 雨水などが浸入しないよう、下図のようにリアカメラ中継ケーブルを配線してください。



3. リアカメラ中継ケーブルのカプラーとリアカメラのカプラーを接続します。



4. リバース連動線を車両のバックランプハーネス等 (シフトレバーを「R」の位置にしたときに電圧が変化するハーネス) に接続してください。



⚠ 注意

- 取り付けや配線の作業時には、安全のため必ず手袋を使用してください。
- リバース連動線の接続先は、停車中にシフトレバーを「R」にした時に6V以上の検知電圧値になることをテスターで確認してください。
- 端子を確実に差し込んで下さい。
- 着脱時にはケーブルを引っ張らないでください。
- ケーブルは、改造による延長はしないでください。画面にノイズが出たり故障の原因となります。
- ケーブルは、高温に上昇する車両の装置に接触しないようにしてください。

取付完了後の確認

■車両部品の復元

取り外した車両部品を元通りに復元します。

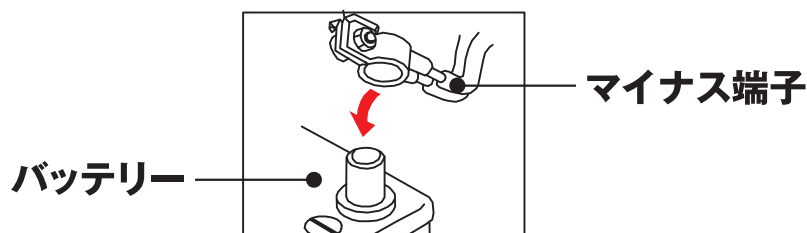


注意

車両内装トリムを復元した際、コードにかみ込みが無い事を確認してください。

■作業の後に

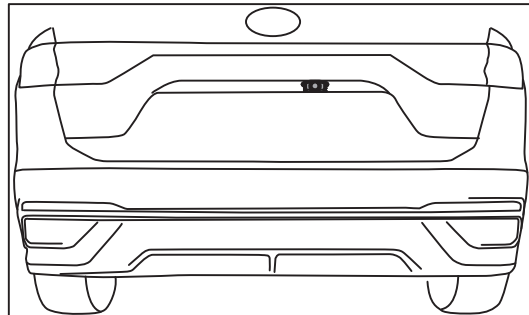
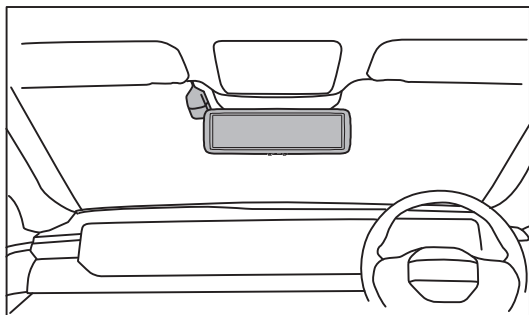
- 1.取り付けた機器や、配線が正しくされているか確認します。
- 2.デジタルルームミラー本体、フロントカメラ、リアカメラがしっかり固定されているか確認します。
- 3.バッテリーのマイナス端子を接続します。



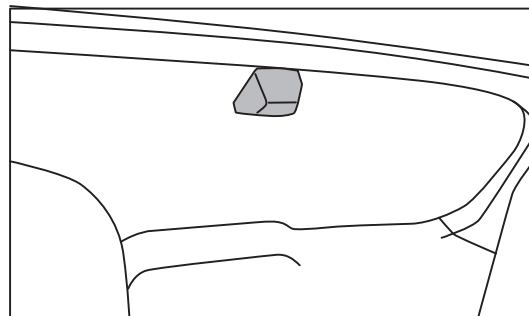
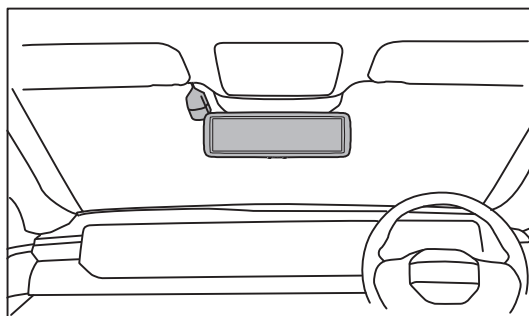
- 4.車のエンジンをかけ、デジタルルームミラー、GPSアンテナ、フロントカメラ、リアカメラが正常に動くことを確認します。

■取付完成図

MDR-A003Aの場合



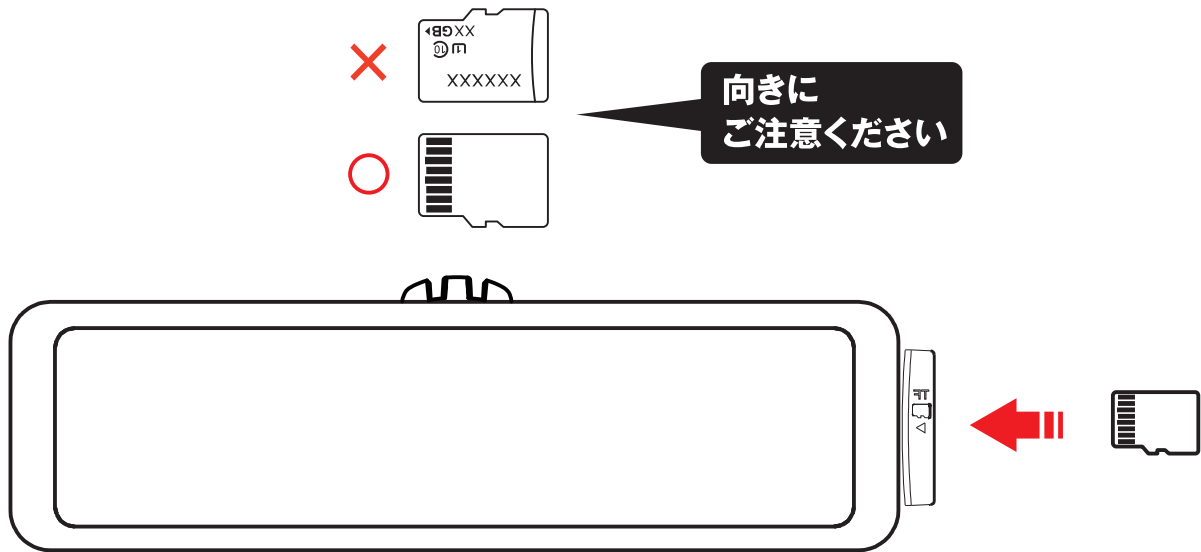
MDR-A003Bの場合



microSDカードの挿入・取り外し

■microSDカードを挿入する

microSDスロットのカバーを開けてから、microSDカードの印字面が手前（ディスプレイ側）になるよう、microSDカードスロットに「カチッ」と音がするまでゆっくりと差し込んでください。

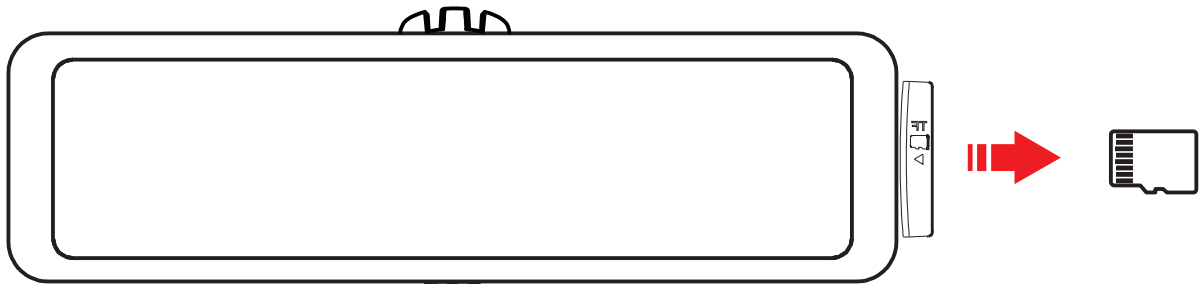


■microSDカードを取り出す

本体設定にてmicroSDカード取り出しの操作をしてから抜いてください。

microSDカードを押してカードが少し飛び出たら引き抜きます。

●カードを取り出す際に飛び出すことがありますので、紛失にご注意ください。



※microSDカードはClass10以上、かつFAT32フォーマット、256GBまでものをご利用ください。

※初回ご利用する際には本機でmicroSDカードをフォーマットしてください。

※64～256GBのmicroSDカードの場合、挿入時にカードを認識しない表示が出る場合がありますが、本体設定にてフォーマットすれば認識されるようになります。

※microSDカードは勢いよく飛び出す場合がありますので、中央部をゆっくりと押して離し、まっすぐ取り出してください。

※取り外したmicroSDカードは、専用ケースに入れるなどして、保管してください。

また、誤ってお子様が飲み込むなどのことがないように、保管場所にもご配慮ください。

※microSDカードの端子部分には触れないでください。接触不良の原因になります。

※microSDカードは接触不良が起こりやすいため、認識されない場合は差し直してください。

電源のON/OFF

■電源のON

車のエンジンを始動（イグニッションキーをON）にすると、本機の電源がオンになります。
同時に常時録画を開始します。

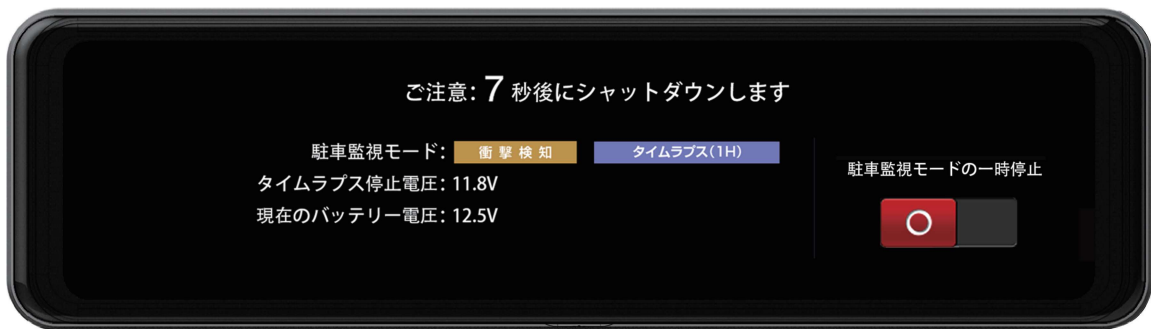
※システム起動のため数秒かかります。



microSDカードを挿入しないで電源を入れると録画は開始しません。
フロントカメラ、リアカメラを接続しないで電源を入れると録画が開始しません。

■電源のOFF

車両のエンジンを停止（イグニッションキーをOFF）した8秒後、本機がシャットダウンになります。
確認画面が表示される時に常時録画を停止します。



8秒後



電源のON/OFF

■電源を手動でOFFにする

本機の電源がONのときに、電源ボタンを3秒長押しすると「再起動」と「電源OFF」のボタンが表示され、7秒以内にどちらかのボタンをタッチして操作を実行できます。

7秒以内に設定ボタン以外の画面をタッチすると、1つ前の画面に戻ります。

7秒以上に操作しない場合は、本機は電源OFFになります。

手動で電源をOFFにした状態で電源ボタンを短押しすると電源ONにできます。

※エンジンスイッチが「OFF」のときには手動で電源を「ON」にすることはできません。



電源ボタン長押し(3秒)

「電源OFF」ボタンタッチ

または

7秒操作しない

■電源を手動でOFFにする(強制終了)

本機は電源ON (ACC ON) の状態で、電源ボタンを5秒以上長押しすることで、システムを強制終了することができます。

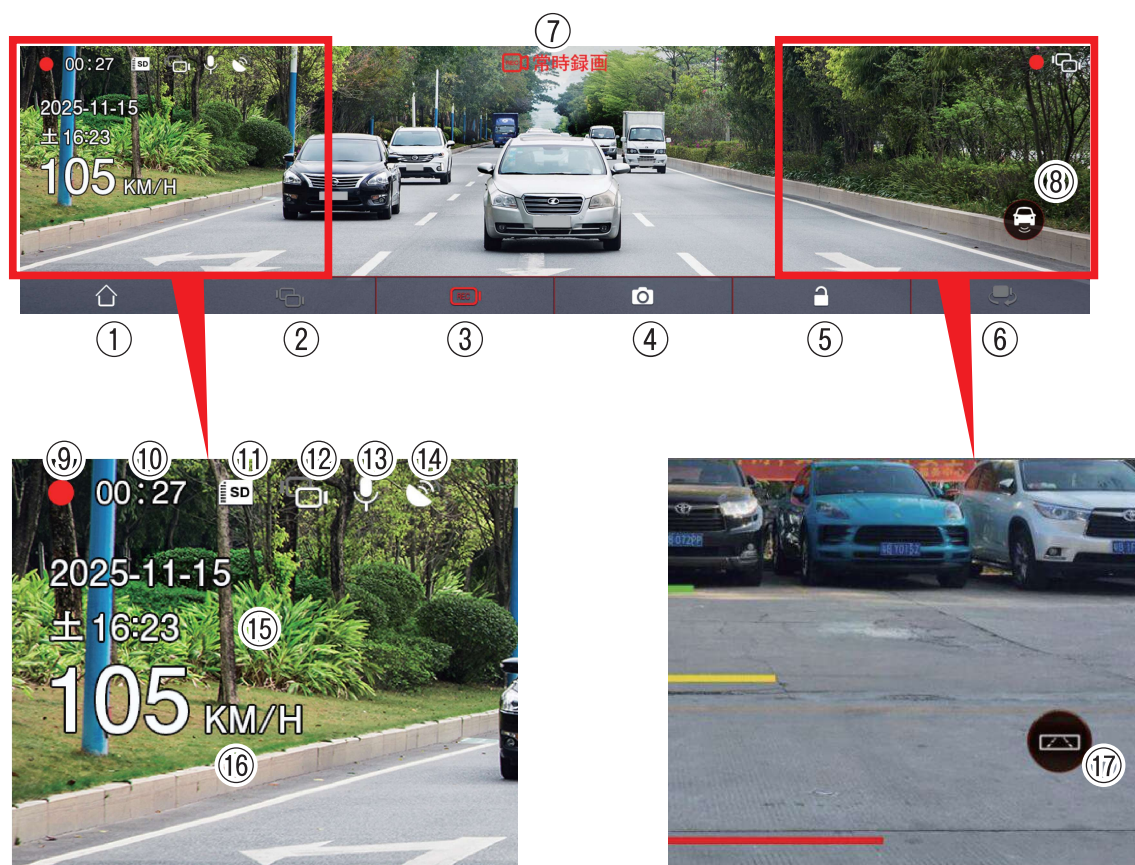


電源ボタン長押し(5秒以上)

ディスプレイ表示

■ 操作画面

本機起動時や録画モードと表示モードを切り替える時に操作画面が表示されます。
また、カメラ映像表示中に画面をタッチすると、操作画面が表示されます。



- ①メインメニューボタン……………メインメニュー設定に移動します。
- ②前後カメラ表示ボタン……………前後カメラ表示画面を切り替えます。
- ③手動録画ボタン……………手動録画の開始/停止をします。
- ④静止画撮影ボタン……………前後各カメラにて静止画を撮影します。
- ⑤緊急録画ボタン……………録画中のデータを保護します。
- ⑥カメラ切替ボタン……………前後カメラ表示画面を切り替えます。
- ⑦録画状態……………録画状態を表示します。
- ⑧駐車アシストモードボタン……………駐車アシスト画面を表示します。
- ⑨録画マーク……………録画中は赤色で点滅します。
- ⑩録画時間……………録画時間を表示します。
- ⑪microSDカード状態……………microSDカード状態(正常/異常/なし)を表示します。
- ⑫録画状態……………録画(ON/OFF)を表示します。
- ⑬録音状態……………録音(ON/OFF)を表示します。
- ⑭GPS状態……………GPSを受信中に表示されます。
- ⑮各種情報表示……………年月日/日時/曜日表示します。
- ⑯スピード表示……………GPSアンテナ接続時のみスピードを表示します。
- ⑰ミラーモードボタン……………「ミラーモード」画面へ移動することができます。

ディスプレイ表示

操作画面表示中に10秒操作しなければ操作画面が消え、表示していたカメラ映像画面を表示します。



■表示カメラ切替

フロント/リアカメラ映像表示中に、⑥カメラ切替ボタンを短押ししてフロント/リア映像表示などの切り替えができます。

リアカメラ



フロントカメラ



フロント/リアカメラ映像表示中に、②前後カメラ表示ボタンを短押ししてフロント・リアカメラ映像を同時に表示させることができます。

フロントカメラ
+
リアカメラ



※フロント/リアどちらかの画面をタッチすると全画面表示します。

ディスプレイ表示

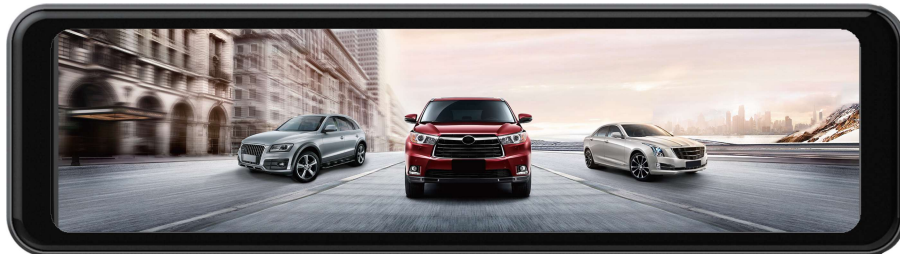
■表示切替

カメラ映像表示画面にて電源ボタンを短押しすると、フロントカメラ映像表示画面から「リアカメラ映像表示1」へ切り替えます。その後に同じ操作をすると、「リアカメラ映像表示1」/「リアカメラ映像表示2」/「画面OFF」の順に表示画面を切り替えることができます。

フロントカメラ
映像表示



リアカメラ
映像表示1



リアカメラ
映像表示2



画面OFF



ディスプレイ表示

カメラ映像表示画面以外の画面にて電源ボタンを短押しすると、「画面ON」/「画面OFF」の順にディスプレイの表示を切り替えることができます。



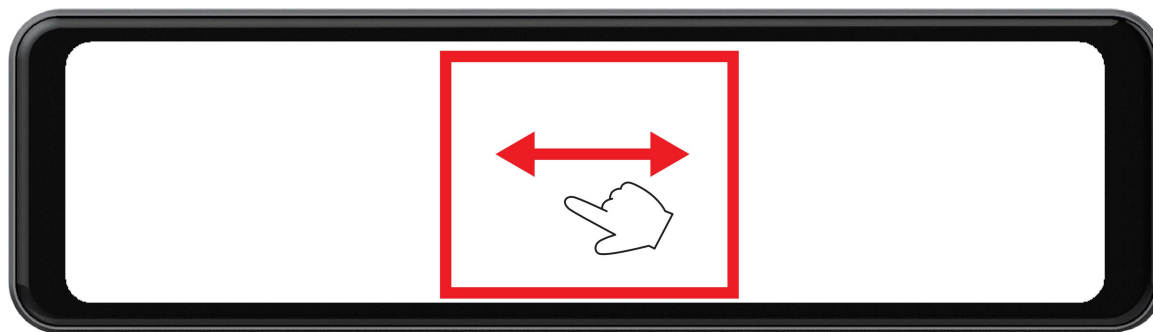
メインメニュー画面



画面OFF

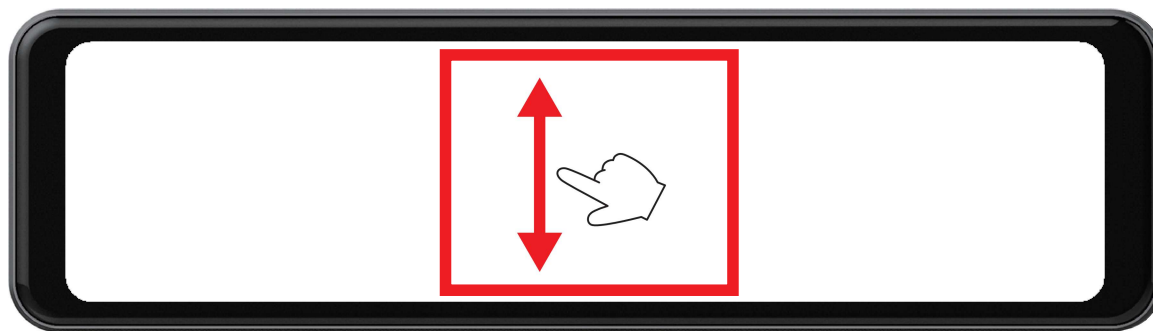
ディスプレイ表示

リアカメラ映像表示画面にて、画面の中央部分をタッチしながら、左右にスライドさせることも、「リアカメラ映像表示1」と「リアカメラ映像表示2」を切り替えることができます。



■上下調整（一時変更）

フロント/リアカメラ映像表示画面にて、画面の中央部分を上下にスライドすることで一時的に表示範囲を変更することができます。



※表示中のカメラのみ調整できます。フロントカメラとリアカメラのアングル調整は連動しません。
※リアカメラ表示エリアの設定 →P.49【上下方向の調整】、【拡大縮小】をご参照ください。

■ディスプレイの輝度及び音量の調整

フロント/リアカメラ映像表示画面にて、
画面の左側を上下にスライドすると液晶の輝度（1～10）を設定できます。
画面の右側を上下にスライドすると音量（1～10）を設定できます。



輝度調整エリア

音量調整エリア

ディスプレイ表示

■ 駐車アシスト画面

バックギアを入力すると「駐車アシスト画面」に切り替わります。

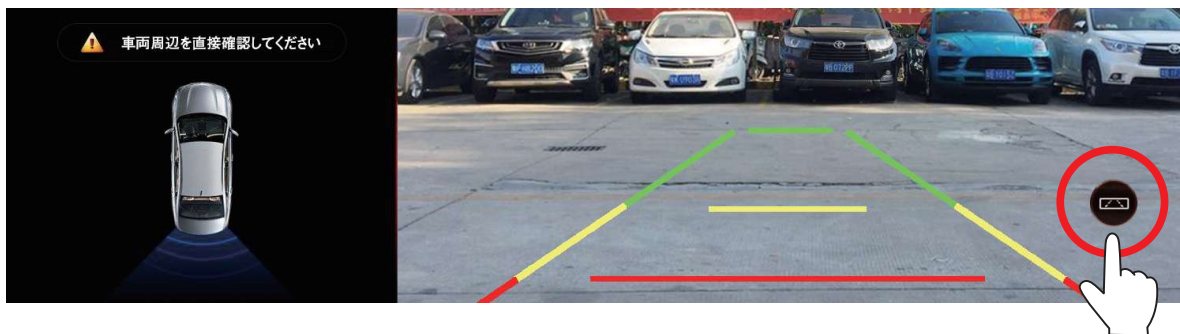
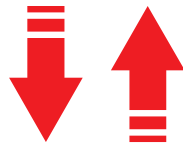
※リバース連動線の接続が必要です。

また、操作画面(リアカメラ映像表示中)にて、⑧駐車アシストモードボタンを押して「駐車アシスト画面」を表示させることも可能です。

「駐車アシスト画面」にて、「ミラーモード」ボタンを押して「ミラーモード画面」へ切り替えることができます。

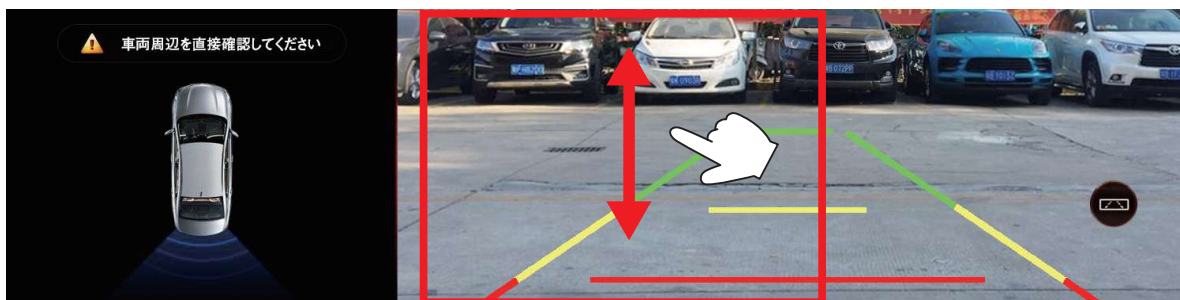


操作画面
(リアカメラ映像表示中)



駐車アシスト画面

「駐車アシスト画面」にて、画面の中央部分を上下にスライドすると表示範囲を変更することができます。



アングル調整エリア (駐車アシスト画面)

メインメニュー画面

操作画面にて①メインメニューボタンを押して、「メインメニュー画面」に移動します。

※30秒間何も操作しない状態が続くと「ミラーモード」に移行されます。



- ①戻るボタン……………1つ前の画面に戻ります。
- ②メインメニューボタン……………メインメニュー画面に戻ります。
- ③日時表示……………時間、年月日、曜日を表示します。
- ④ミラーモードボタン……………リアカメラ映像表示画面に移動します。
- ⑤運転支援機能ボタン……………運転支援機能画面に移動します。
- ⑥録画設定ボタン……………録画設定画面に移動します。
- ⑦システム設定ボタン……………システム設定画面に移動します。
- ⑧再生ボタン……………再生モード画面に移動します。

運転支援機能

- ・本製品はフロントカメラとリアカメラで撮影した映像を解析し、危険な運転を行っているときに画像や音声メッセージと警告音などで注意喚起する運転支援機能を搭載しています。
- ・本機能を使用する場合は必ず「キャリブレーション」にて、設置する車に合わせて調整してください。
- ・本製品の運転支援機能は下記の7つの機能を搭載しています。

■ ADAS機能 ※先進運転支援システム (Advanced driver-assistance systems)

① 先行車接近お知らせ機能

内容: 先行車への接近を検出し、お知らせを行います。

② 車線逸脱お知らせ機能

内容: 車線のはみ出しを検出し、お知らせを行います。

③ 通行人接近お知らせ機能

内容: 通行人への接近を検出し、お知らせを行います。

④ 先行車発進お知らせ機能

内容: 先行車の発進を検出し、お知らせを行います。

⑤ 先行車接近継続お知らせ機能

内容: 先行車への接近が継続していることを検出し、お知らせを行います。

■ BSD機能 ※後方死角検知システム (Blind Spot Detection systems)

⑥ 障害物検知 (走行) 機能

内容: 検知エリアから接近する車両・通行人を検出し、お知らせを行います。

⑦ 障害物検知 (駐車) 機能

内容: 検知エリアから接近する車両・通行人を検出し、お知らせを行います。

※一部機能はGPSを受信していない状態では動作しません。また、GPSから入力される速度は実際の走行速度と最大で1秒程度のかい離が生じます。すでに減速するなど衝突のおそれが減少した場合でも、タイミングがずれて注意喚起する場合があります。

※カメラの取付位置、角度、フロントガラスやリアガラスの汚れおよび本機の設定状況により正しく動作しない場合があります。

※カメラからの画像情報をもとに判断をするため、走行環境(天候、時間帯や道路状況など)、逆光などにより、正しく動作しない場合があります。

※画面表示が[OFF]の場合、画面表示は行いません。

※運転支援機能作動時の表示画面は録画ファイルに記録されません。

システムの機能には限界があります。運転する際は、必ずお客様の目視で周囲の状況を把握し、安全を確認してください。

運転支援機能について

注意

- 本機の運転支援機能は、運転者の負担軽減を目的としており、周辺の状況や走行状態の変化を補助的にお知らせする機能となります。
- 本機の運転支援機能は、あくまでドライバーの運転をサポートするもので事故を未然に防ぐものではありません。また、全ての危険を警告するものではありません。
- 安全運転支援機能を使用する前に、キャリブレーションを行なってください。
車両を平らで見通しの良い場所に停車させ、本機の設定やカメラの角度を調整します。
※キャリブレーションは、必ずパーキングブレーキをかけた状態で行ってください。
取り付け車種によっては、検出誤作動することがあります。頻繁に誤作動する場合は、安全運転支援機能の設定をやる直すか、設定をオフにすることをお勧めします。
- 本機は車両死角検知機能をもっていますが、車両検出において100%の正確性を保証するものではありません。また、運転時は安全運転義務および道路交通法を遵守してください。また、実際のバックや車線変更時には、必ず目視にて周辺状況を確認してください。
- 時速は本機に内蔵されているGPSで測定しています。そのため、実際の速度や車両のスピードメーターと誤差があります。
- 車両の方向指示器やスピードパルスとは連動はしません。
- 安全運転支援システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではありません。また、安全運転支援システムだけが様々な条件において、有効に動作しない場合があります。
- 安全運転支援システムは運転者の安全運転を前提としたサポート機能であり、機能には限界があるため、本システムを過信せず、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認を心がけてください。
- 運転支援機能は画像処理技術を利用しておりますので、車両に搭載されている純正品のミリ波レーダーや赤外線カメラ、ツインカメラ等が持つ運転支援機能精度とは異なり、画像処理技術の範囲で実現した動作精度となります。
- 本書に従って正しく使用していた場合であっても、動作を完全に保証するものではありません。本機の安全運転支援機能に関しましては、ご使用中の状況、周囲の環境、気象状況等により作動しない可能性があります。
- 誤動作や意図したような動作をしない場合がありますが、故障ではありません。
- 本製品を使用中に事故が発生した場合でも、運転支援機能の作動状況や使用者の事情に関わらず、弊社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 運転中に運転者が調整することは絶対にしないでください。
- 運転者は道路交通法に則った上、実際の道路状況に基づいて、安全運転に努めてください。

運転支援機能について

■本機が車両・歩行人を検知する条件

次のような状況で検知範囲に入った車両及び歩行人を検知します。

- ・ 検知エリアに他車が進入した場合
- ・ 検知エリアに歩行者が進入した場合

■本機が検知しない条件

次のような車両・歩行者やそれ以外のものを検知対象としません。

- ・ ガードレール・壁・標識などの静止物※
- ・ 大きい速度差で自車が追いかす他車※

※一部の特殊な道路状況や環境等によっては、動作する場合があります。

■正しく動作しないおそれがある状況

次のような状況では正しく検知しないおそれがあります。

- ・ フロントカメラ・リアカメラに映り込みがある場合
- ・ フロントカメラ・リアカメラに汚れがある場合
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行する場合
- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近する場合
- ・ 自車と後続車の車間距離が短い場合
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎる場合
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しい場合
- ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けた場合
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行している場合
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行する場合
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着している場合
- ・ 天候(雨、雪、濃霧、ワイパー使用中)、時間帯(朝方、夕方、夜間等)、逆光による状況変化がある場合
- ・ 交通状況(渋滞、歩行者)による変化がある場合
- ・ 検知範囲に入る他車の形状や色、光(明るさ)の加減などによって認識できない場合
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎる場合
- ・ 道路舗装状況、車線表示に劣化がある場合
- ・ 車線の分岐・合流のある道路を走行した場合
- ・ 急な明るさの変化が起こったとき(トンネルの出入り口など)

■本機が不要な検知をする可能性があります

特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ・ フロントカメラ・リアカメラの位置、向きがずれている場合
- ・ フロントカメラ・リアカメラの映像にリアワイパーやスポイラー等、障害となるものが映り込んでいる場合
- ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入った場合
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど隣車線以外を走行する車両が検知範囲に入った場合
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行する場合

運転支援機能(ADAS)

■ ADAS機能について

運転中のお客様のお車は衝突のおそれがある場合は注意喚起が行われ、安全運転をサポートします。

フロントカメラ映像表示画面にて、検出した車両を緑色枠で示します。

フロントカメラ映像表示画面にて、検出した歩行者を紫色枠で示します。

● 先行車接近お知らせ機能

走行中に先行車に近づき危険だと判断した時の注意喚起マーク表示と音声ガイダンス
設定速度(0~100km/h)以上で機能します。

お知らせ内容	音声ガイダンス	注意喚起マーク
車間距離を確認	「車間距離を確認してください。」	

● 車線逸脱お知らせ機能

走行中に意図せず車線を越えた時の注意喚起マーク表示と音声ガイダンス
設定速度(0~100km/h)以上で機能します。

お知らせ内容	音声ガイダンス	注意喚起マーク
車線逸脱	「車線のはみ出しにご注意してください。」	

● 歩行人接近お知らせ機能

走行中に歩行人に近づき危険だと判断した時の注意喚起マーク表示と音声ガイダンス
設定速度(0~100km/h)以上で機能します。

お知らせ内容	音声ガイダンス	注意喚起マーク
歩行人を確認	「歩行人にご注意してください。」	

運転支援機能(ADAS)

● 先行車発進お知らせ機能

前方車の発進後に自車が停止し続けた時の注意喚起マーク表示と音声ガイダンス
自車停止中(0km/h)、前方車両が発進した時に機能します。

お知らせ内容	音声ガイダンス	注意喚起マーク
先行車を確認	「先行車が発進しました。」	

● 先行車接近継続お知らせ機能

走行中に先行車に継続的に近づき危険だと判断した時の注意喚起マーク表示と音声ガイダンス

設定速度(0~100km/h)以上で機能します。

お知らせ内容	音声ガイダンス	注意喚起マーク
追突を確認	「先行車に接近しています。」	

※注意喚起マークは画面の右上に表示されます。

※注意喚起後のブレーキ操作により衝突を回避・軽減することを主な目的とした機能ではありません。

また、前方衝突事故の防止を保証するものではありません。また、すべての危険を警告するものではありません。

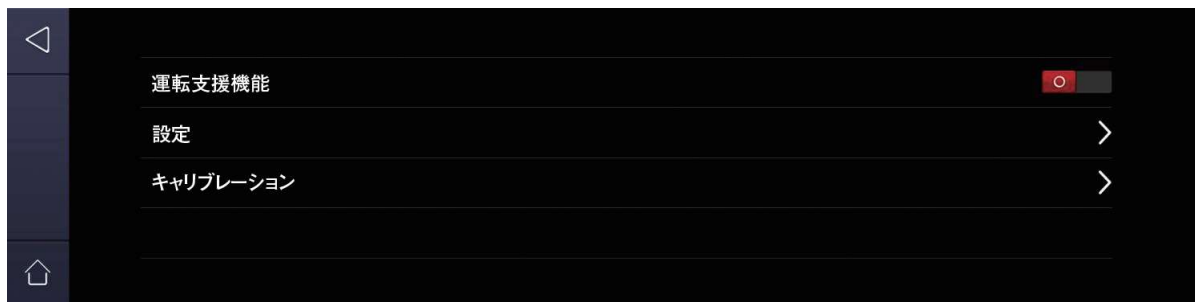
運転支援機能(ADAS)

■ ADAS機能の設定について

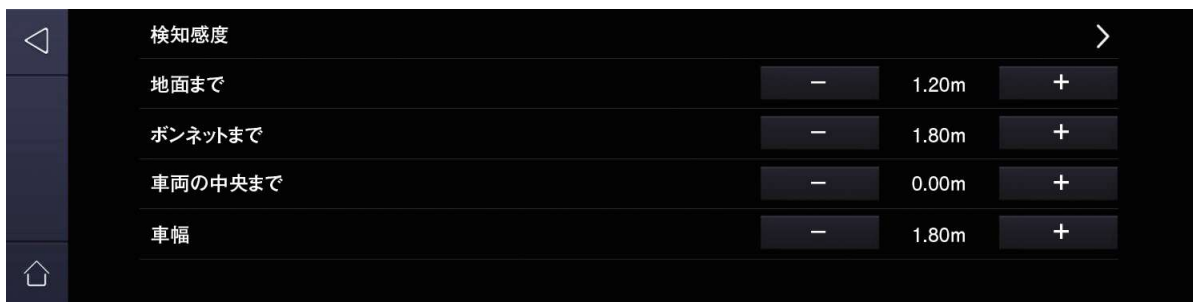
メインメニューにて、「運転支援機能」→「ADAS」のアイコンをタッチする。



- ① 運転支援機能……………ADASを機能する/しないを設定する
- ② 設定……………設定画面へ移行する
- ③ キャリブレーション……………キャリブレーション画面へ移行する



- 設定→検知感度:ボタンをタッチすると、運転支援機能(ADAS)の項目が表示されます。
右側の>ボタンをタッチすると、該当機能の感度調整画面が表示されます。
該当機能の「警告感度」と「走行速度※」を設定することができます。



項目	初期設定値	設定項目
検知感度	中	低(感度)、中(感度)、高(感度)
走行速度※	20km/h	0km/h、10km/h、20km/h、30km/h、40km/h、50km/h、60km/h、70km/h、80km/h、90km/h、100km/h

※先行車発進お知らせ機能は「走行速度」の設定項目がありません。

運転支援機能(ADAS)

- 設定→下記の項目については、フロントカメラ設置場所を測って入力してください。

地面まで……フロントカメラの設置場所の高さ

ボンネットまで……フロントカメラから車両先端までの水平距離

車両の中央まで……フロントカメラから車両中央線までの水平距離

車幅……………お車の車幅

※10cmの位までの測定値を入力してください。

5cm以上10cm未満の場合は10cmと計上します。

- キャリブレーションを行う



- ①フロントカメラの角度を上下して、画面中心を地平線に合わせます。
- ②画面に表示するメッセージに従って、左右(◀▶)ボタンと上下(▼▲)ボタンをタッチして縦線と横線の位置を調整します。
※車種によってボンネットが映っていない場合は、画面の下の方へ線を下げてください。
- ③位置の調整が終了したら、(保存)ボタンをタッチします。

運転支援機能 (BSD)

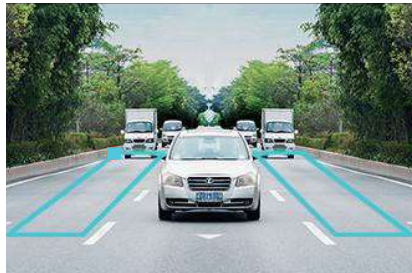
● 障害物検知 (走行) 機能

設定した速度以上で走行する時、後方の左右 (設定によって後方) から接近する車両を検知したときは注意喚起を行います。

お知らせ方法: 画面の左または右 (設定によって真ん中) に注意喚起マークを表示し、同時に警告音を発します。

検出した車両は緑色枠で示します。

検出した歩行者は紫色枠で示します。



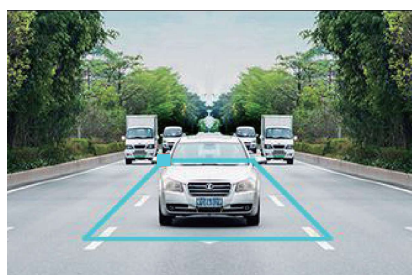
検知エリア (後側方)



(車両)

注意喚起マークの表示例

(歩行人)



検知エリア (後方)



注意喚起マーク表示例 (後方車両接近)

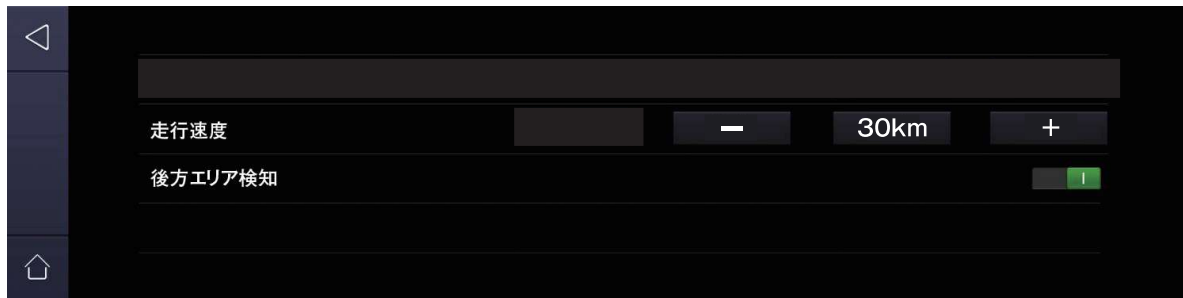
運転支援機能 (BSD)

● 障害物検知 (走行) 機能を設定する

1. メインメニューにて、「運転支援機能」→「BSD」をタッチする。
2. 「障害物検知 (走行)」機能をONにする。
3. 該当機能の設定ボタン (歯車) をタッチする。
4. 障害物検知 (走行) 機能の設定画面が表示されるので、設定したい項目を調整する。

走行速度……………作動する走行速度を設定する

後方エリア検知……………後方エリアを検知する/検知しないを設定する



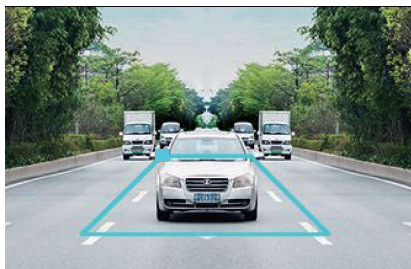
運転支援機能 (BSD)

● 障害物検知 (駐車) 機能

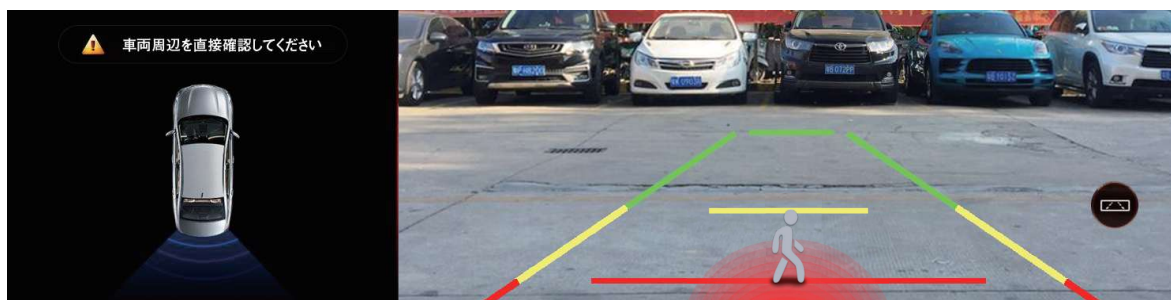
駐車アシスト画面が表示される時、後方の検知エリアに車両や通行人が侵入するときに注意喚起マーク表示と警報音でお知らせを行います。

検出した車両は緑色枠で示します。

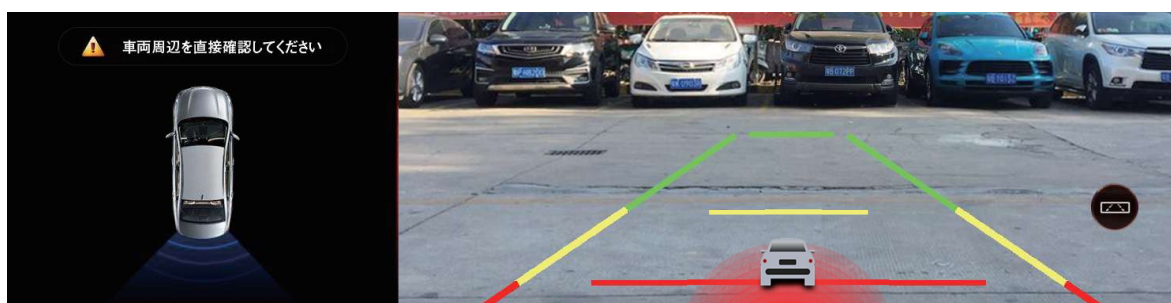
検出した通行人は紫色枠で示します。



検知エリア



注意喚起マークの表示例 (通行人)



注意喚起マークの表示例 (車両)

運転支援機能 (BSD)

● 障害物検知 (駐車) 機能の検知エリアを設定する

お客様のお車に合わせて検知を行う範囲を調整します。

1.メインメニューにて、「運転支援機能」→「BSD」をタッチする。

2.「障害物検知 (駐車)」機能をONにする。

3.該当機能の設定ボタン (歯車) をタッチする。

4.障害物検知 (駐車) 機能検知範囲の設定画面が表示されるので、画面を見て調整したいガイドポイントを順番に矢印ボタンで移動 (調整) する。

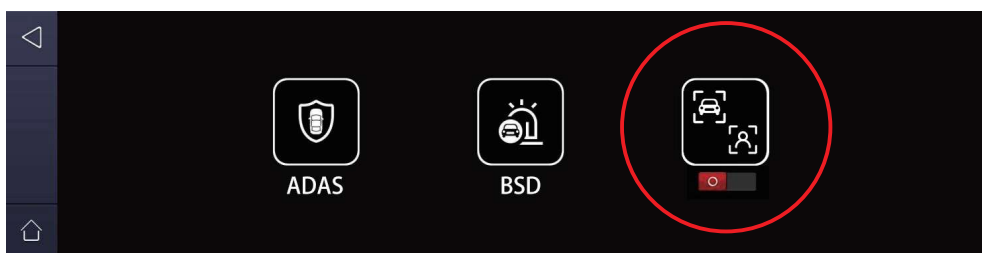
調整中のガイドポイントは赤●カーソルで示し、左右上下ボタン (◀▶▼▲) を押して

赤●カーソルを移動して検知範囲エリアを調整できる。

※赤●カーソルは中ボタンを押すと時計回りのように位置が変わります。



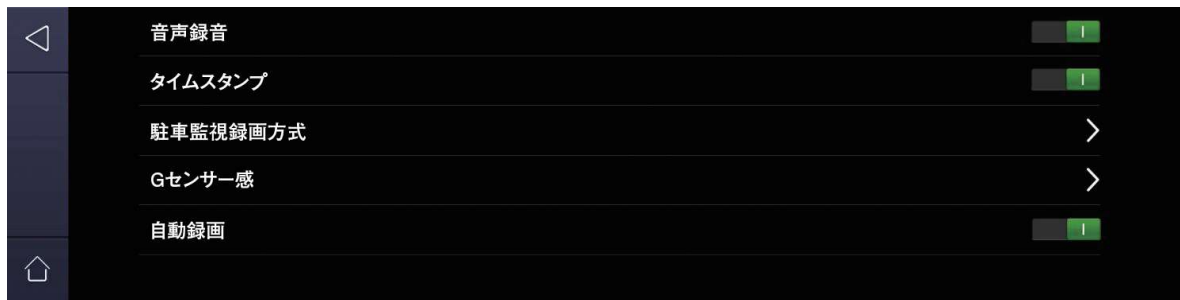
4.調整完了後に、「保存」ボタンを押して検知エリアを保存する。



このアイコンをタッチすると、リアカメラ映像による後方の (車両) と (通行人) の認識済みを示す「四角の枠」を表示する/しないを切り替えることができます。

録画設定

メインメニューで「録画設定」ボタンを押して、録画設定メニュー画面に移動します。



音声録音……………録音する/しないを設定します。

タイムスタンプ……………録画ファイルに日時表示する/しないを設定します。

駐車監視録画方式……………駐車監視録画の方式を設定します。

※>ボタンを押しすると、設定画面が表示されます。

Gセンサー感度……………常時録画途中の緊急録画（イベント録画）と駐車監視録画（衝撃検知）動作時の車両への衝撃を検知する感度を設定します。

※>ボタンを押しすると、設定画面が表示されます。

自動録画……………エンジン連動で自動的に録画開始する/しないを設定します。

■ 駐車監視録画方式について

駐車監視録画機能の設定を行います。「タイムラプス+衝撃検知」を選択した場合は、タイムラプス録画の時間や録画のフレームレートも設定できます。



駐車監視モード

オフ	エンジン停止状態では録画しません。（本機は電源オフになります。）
オン 衝撃検知	本機は衝撃を検出した場合、1ファイルに（後60秒）の緊急録画を記録します。
オン タイムラプス+衝撃検知	タイムラプス録画の設定時間が経過するまで、フレームレートを「1～4コマ/秒」に変更し記録を行うタイムラプス録画をおこないます。 途中に衝撃を検出した場合は、衝撃検知時のタイムラプス録画ファイルを緊急録画として記録します。 設定時間が経過後、タイムラプス録画が停止し、衝撃検知待機状態に入ります。衝撃を検出した場合は1ファイルに（後60秒）の緊急録画を記録します。

録画設定

● 駐車監視モードの動作

1. 駐車監視モードの開始 ----- エンジンを停止する(ACCをOFF)
エンジン停止(ACCがOFF)になってからに駐車監視録画モードが作動します。

2. 駐車監視モードの終了 ----- エンジンを始動する(ACCをON)
ACCをONにすると液晶画面が表示され、常時録画を開始します。
※「自動録画」をONに設定し、microSDカードが挿入された状態に限ります。

● 駐車監視モードの保護電圧

タイムラプス録画の駐車監視機能の保護電圧は、システム設定メニューの「安全設定」→「タイムラプス停止電圧」から、電圧カットオフ値を「11.8V」/「12.0V」/「12.2V」に設定します。
衝撃検知録画の駐車監視機能の電圧カットオフ値は 11.3V 固定です。
※使用環境や車両の状態によって、電圧カットオフ値は±2%程度の誤差が生じます。

● 駐車監視モードの一時停止

エンジン停止後に下記の画面が表示されます。画面右下のON/OFFボタンを短押しすることで駐車監視モードの一時停止ができます。



● タイムラプス録画の注意点

- ・ タイムラプス録画で記録した映像は通常録画フォルダに保存されます。
衝撃を検知したのタイムラプス録画ファイルは緊急録画フォルダに保存されます。
通常録画領域と緊急録画領域の領域がいっぱいになると、古いファイルを削除して新しい録画を上書き保存します。
- ・ フレームレート設定が1フレーム/秒の場合、1つの録画ファイルは約27.5分、2フレーム/秒の場合、1つの録画ファイルは約14分、4フレーム/秒の場合、1つの録画ファイルは約5.5分の映像記録となります。
- ・ バッテリー電圧がバッテリー保護レベルの設定値より下がったとき、タイムラプス録画設定時間内であっても自動的に電源がOFFになります。
- ・ タイムラプスに設定すると音声録音設定に関わらず、録音はされません。

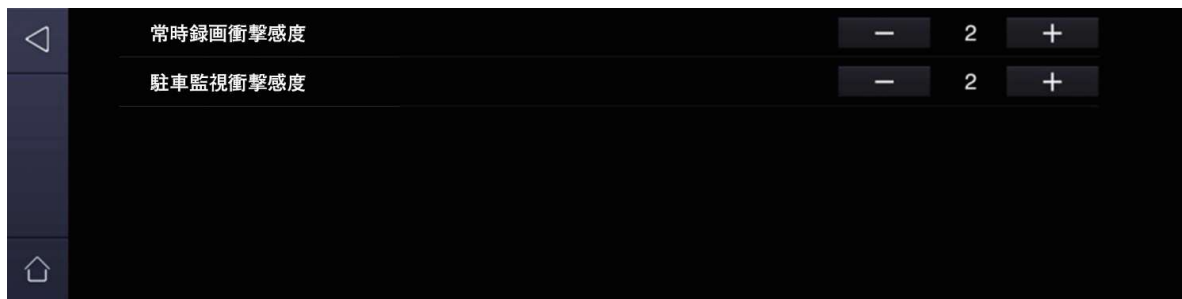
録画設定

■Gセンサー感度

常時録画途中の緊急録画(イベント録画)と駐車監視緊急録画(衝撃検知)それぞれの衝撃感度を設定できます。

常時録画衝撃感度……………レベル0(走行中に衝撃を検知しません。)
レベル1(低感度)～レベル4(高感度)

駐車監視衝撃感度……………レベル1(低感度)～レベル4(高感度)



録画モード

■常時録画

車のエンジン始動からエンジン停止まで、ループ録画を行います。録画時間(ループ録画)は1分です。

常時録画の録画領域はmicroSDカード全体の70%です。

常時録画の録画領域はいっぱいになると、古いファイルから順に消去し、新しい映像を録画(上書き)します。

映像データが必要な場合は、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、microSDカード取り出し操作を行ってからmicroSDカードを抜いて、パソコンにデータ保存するなどの対応をお願いします。



録画モード

■緊急録画(走行中の衝撃検知録画/常時録画手動ロック保存)

常時録画中に手動で緊急録画ボタンを操作する、または本機が衝撃を検知する場合は、検知時の録画ファイルを緊急録画ファイルとして保存します。

緊急録画の録画領域はmicroSDカード全体の30%です。

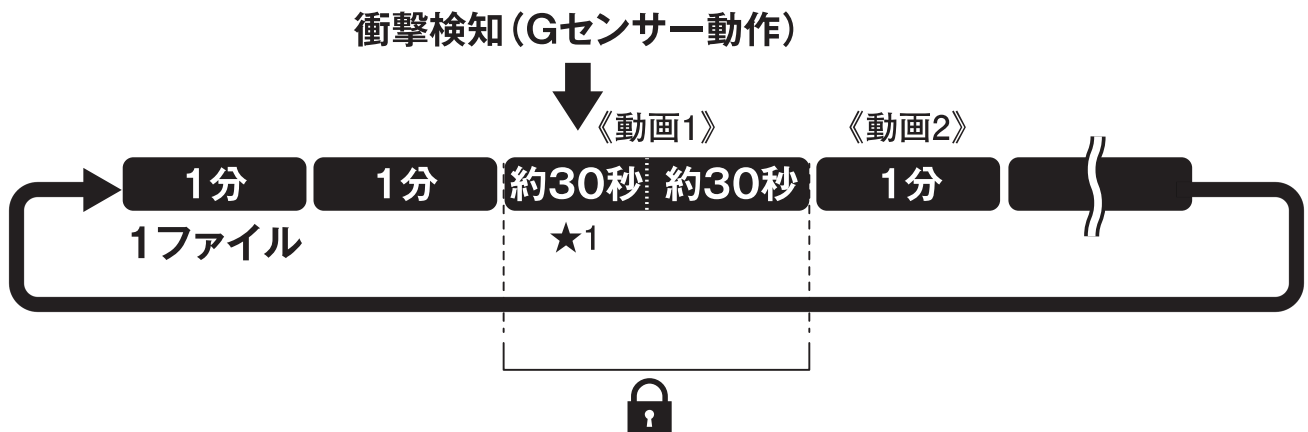
緊急録画開始の時点より、ロック(保護)されるファイルが異なります。

《例》

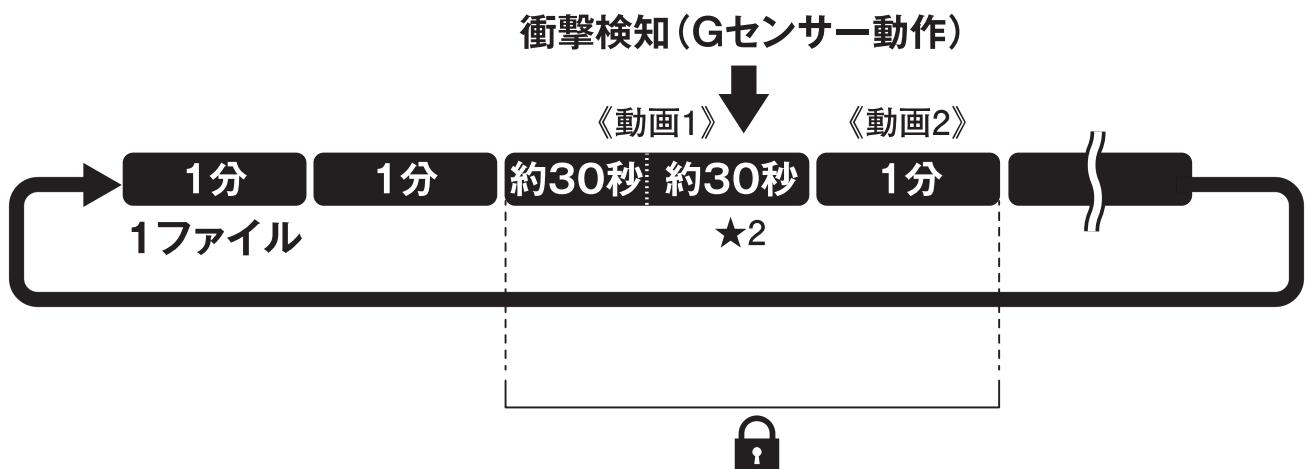
※《動画1》の時に緊急録画ボタン操作、または衝撃検知により緊急録画が開始

※★は緊急録画の開始時点

★1:録画ファイルの最初から30秒以内にイベントが発生される場合は、《動画1》のみがロックされます。緊急録画が終了すると、通常録画に戻ります。



★2:録画ファイルの31秒～60秒以内にイベントが発生される場合は、《動画1》と《動画2》がロック(保護)されます。緊急録画が終了すると、通常録画に戻ります。



※緊急録画領域がいっぱいになると、古い緊急録画ファイルから順に上書きします。
必要に応じて、microSDカードのデータをパソコンに保存してください。

システム設定

■ 駐車監視録画 (衝撃検知)

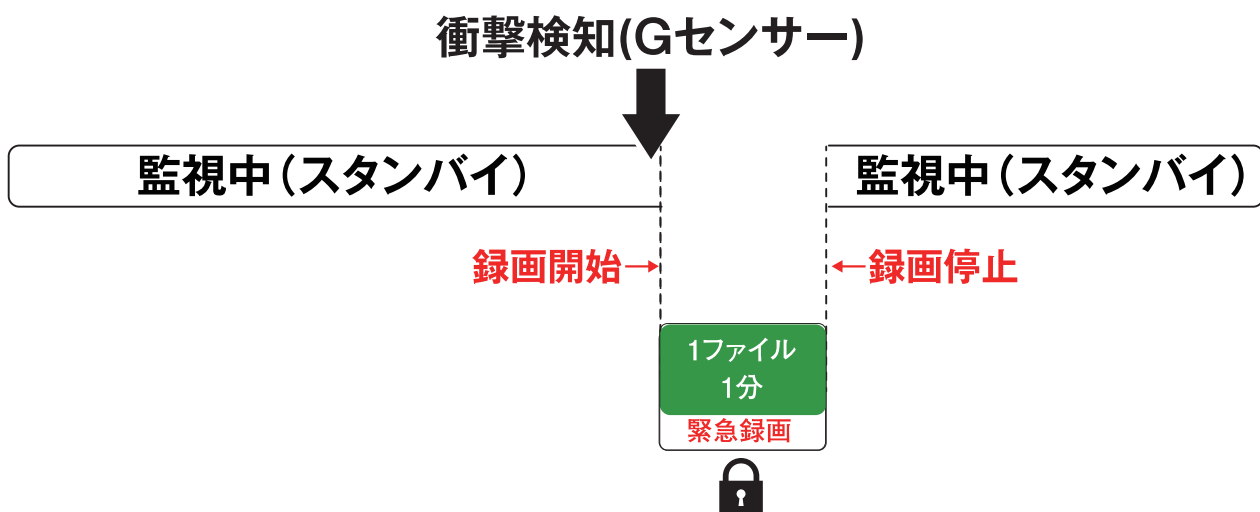
エンジンオフの10秒後から有効となり、監視中に車両への衝撃を検知すると、緊急録画 (駐車監視) を開始します。緊急録画 (駐車監視) の録画時間は60秒 (検知後60秒) です。

緊急録画 (駐車監視) を終了すると、再び監視モード (待機状態) を開始します。

駐車イベント録画 (走行中のイベント録画を含む) の領域はmicroSDカード全体の30%として設定されています。

イベント録画の録画領域がいっぱいになると、古いファイルから順に消去し、新しい映像をイベント録画 (上書き) します。

データが必要な場合は、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、microSDカードを抜いて、パソコンに保存するなどの対応をお願いします。

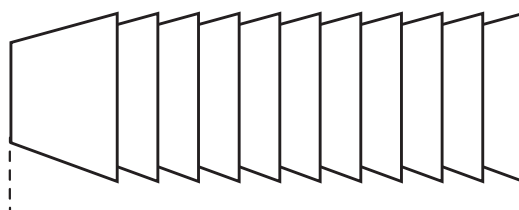


■ 駐車監視録画 (タイムラプス+衝撃検知)

エンジンオフの10秒後から有効となり、設定した時間間隔ごとに写真撮影を行ったり、それらの写真をつなげて動画のようにする録画方式です。1秒間のフレーム数 (撮影枚数) を少なくして映像を記録する機能で、通常の常時録画より使用するメモリー容量を抑えることができます。

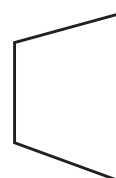
(例)

常時録画



1秒間に60枚撮影
(60fps)

タイムラプス録画

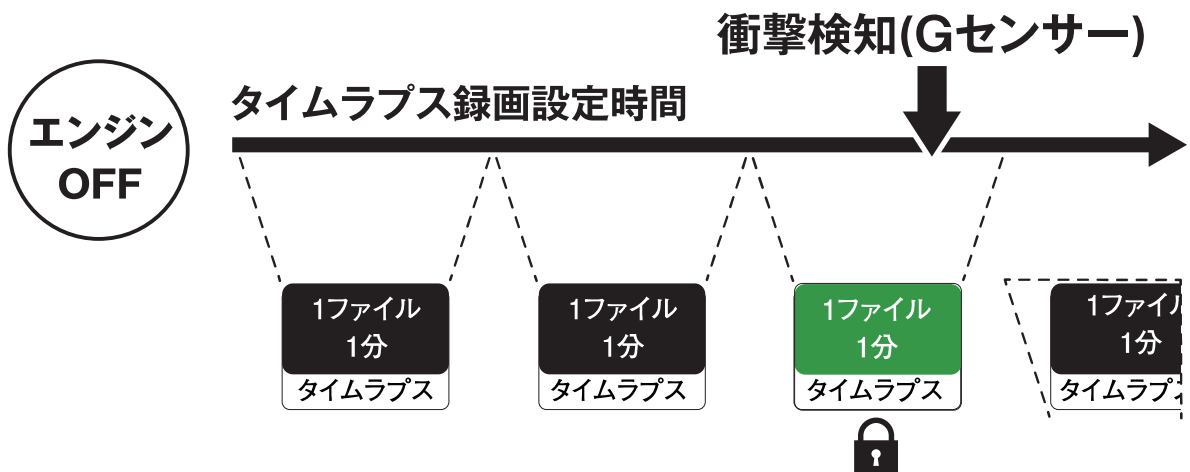
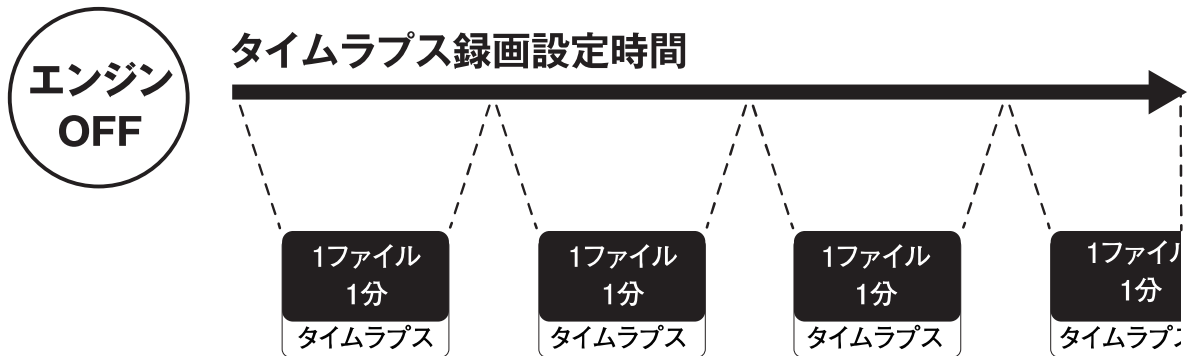


1秒間に1枚撮影
(1fps)

タイムラプス録画中に衝撃を検知した場合は、衝撃を検知した時点の録画ファイルをロック (保護ファイル) して保存します。

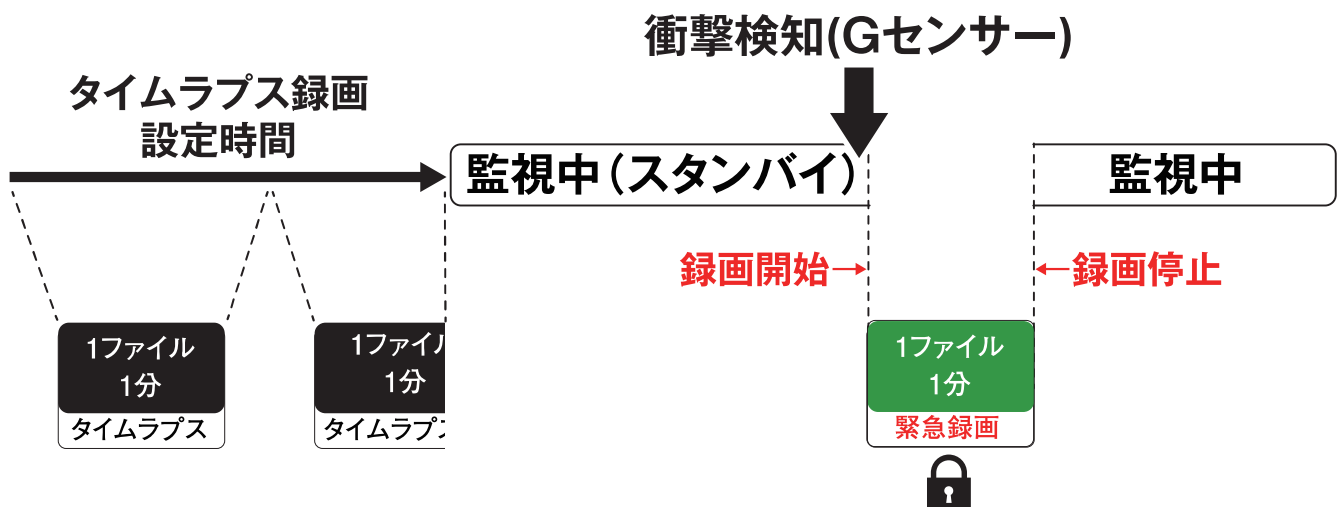
データが必要な場合は、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、microSDカードを抜いて、パソコンに保存するなどの対応をお願いします。

システム設定



※タイムラプスはコマ録り画像のため、映像を再生する時は、実際の撮影時間より短い時間で再生します。また、LED（信号機含む）の映像が記録されない場合があります。

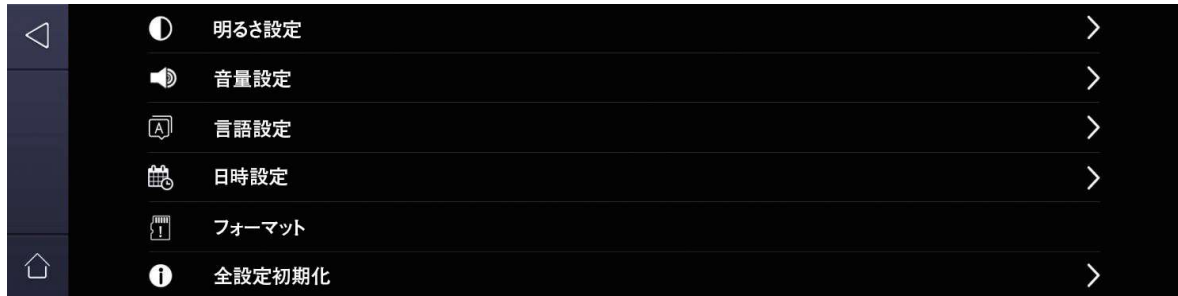
タイムラプス録画設定時間が経過すると衝撃検知のスタンバイ状態に移行します。



システム設定

メインメニューにて「システム設定ボタン」を押して、システム設定メニュー画面に移動します。本体の各種設定を行うことができます。

● 設定一覧



明るさ設定……………昼/夜の液晶明るさレベルを設定します。

音量設定……………スピーカーから出力する音量を設定します。

言語設定……………表示言語を、日本語・中国語・英語から選択できます。

日時設定……………画面表示と映像に記録する日時の設定画面が表示されます。

GPS電波を受信できない場合は手動で設定します。

※GPSを受信することで本体の日時が自動的に設定されます。

フォーマット……………microSDカード内の映像をすべて削除します。

※保存しておきたい映像がある場合は、PCに保存してから本操作を行ってください。

本体情報……………ファームウェアなど本体の各種情報を確認できます。

全設定初期化……………全ての設定項目を工場出荷時の設定に戻します。

SDカード取り出し……………microSDカードのマウント状態を解除します。

※認識済みのmicroSDカードを取り外すには、マウント状態を解除する必要があります。

安全設定……………●「電源接続異常警告」のON/OFFを設定します。

→ONにすると、電源配線の異常を検知するとき、画面上に警告メッセージが表示されます。

●「タイムラプス停止電圧」タイムラプス停止電圧を設定できます。

●「リフレッシュ通知」本機を設定した時間以上連続して使用した場合、休憩を促す音声メッセージを出す・しないを設定します。

→音声メッセージ:【長時間運転です。そろそろ休憩しませんか?】

●「連続運転時間」リフレッシュ通知の案内時間を設定します。

→音声メッセージは設定した時間を経過したときに一度発し、その後も運転が継続する場合は、30分おきに一度発します。

リアカメラ表示設定……………ディスプレイに表示させるリアカメラの表示エリアや表示内容を調整できます。

リバース連動……………リバース連動時の駐車アシスト線(ガイドライン)の設定ができます。

システム設定

● 明るさ設定

画面の輝度を調整できます。

輝度調整について:

モニターの輝度を時間帯によって調整できます。

昼間時間帯の初期値:昼間(06:00～18:00)/夜間(18:00～06:00)

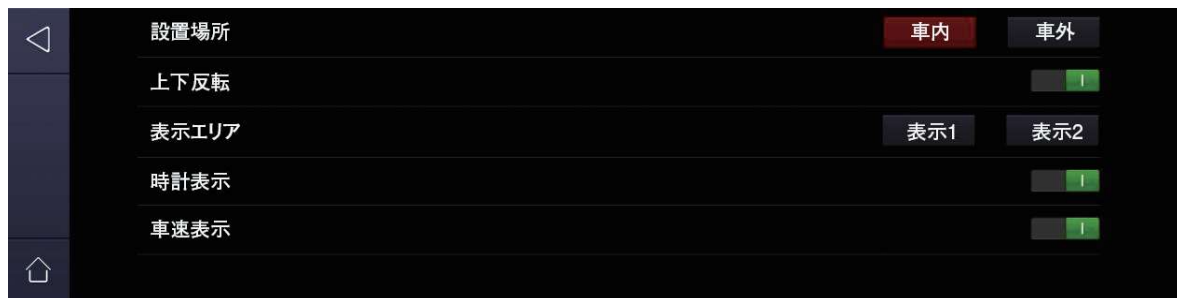
※画面の明るさレベルを切り替える時間帯の設定が変更できます。

※昼間の時間帯では夜間の設定ができません。それぞれの時間帯内に設定してください。



The screenshot shows the 'Brightness Level' (明るさレベル) setting screen. At the top, there are minus and plus buttons flanking the number '5'. Below this is the 'Daytime Period Setting' (日中時間帯設定) section, which includes a time range '(01:00 - 11:59) — (13:00 - 23:59)'. A digital clock displays '06 時 00 分 — 18 時 00 分'. At the bottom, there is a numeric keypad with buttons for digits 1 through 6, 7 through 0, a backspace button (X), and an 'Enter' button.

● リアカメラ表示設定



The screenshot shows the 'Rear Camera Display Setting' (リアカメラ表示設定) screen. It features several toggle switches: 'Setting Location' (設置場所) with 'In Car' (車内) selected, 'Vertical Flip' (上下反転) which is turned on, 'Display Area' (表示エリア) with 'Display 1' (表示1) selected, 'Clock Display' (時計表示) which is turned on, and 'Speed Display' (車速表示) which is turned on. Navigation arrows are visible on the left side of the screen.

【設置場所】

リアカメラの設置場所を「車内」または「車外」を設定します。

【上下反転】

オンにするとリアカメラ映像が180度反転して表示されます。

リアカメラを逆さまの状態に取り付けたい場合には、この機能を使用して画像を確認してください。

【表示エリア】

「表示1」と「表示2」を押して、それぞれのリアカメラ表示エリアを調整できます。

※運転に支障がないよう、リアカメラ映像の表示エリアを設定してください。

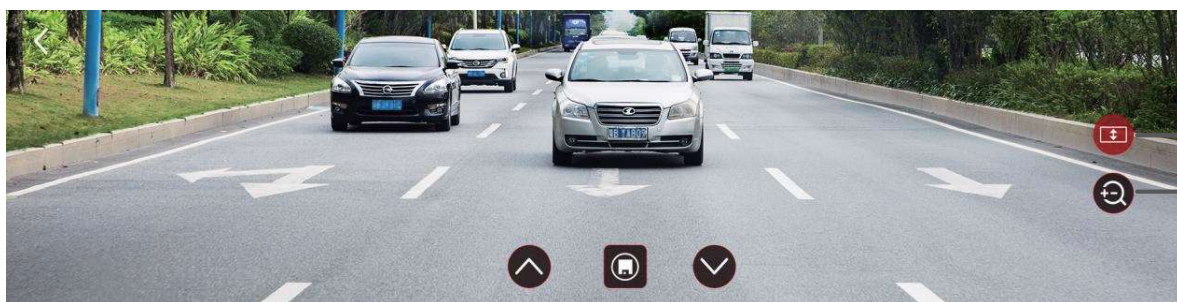
【時計表示】

モニター(ミラーモード画面)に日時を表示する・しないの設定をします。

【車速表示】

モニター(ミラーモード画面)車速を表示する・しないの設定をします。

システム設定



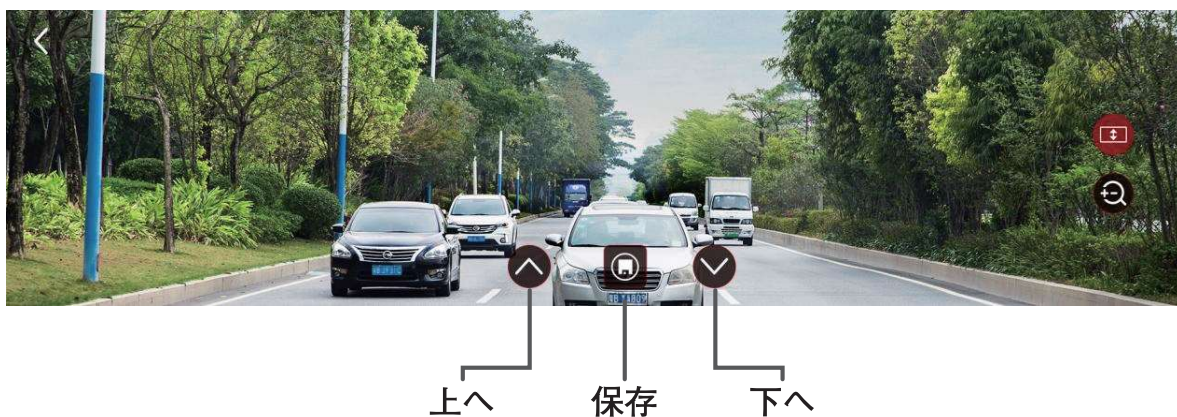
上方方向調整ボタン

拡大縮小調整ボタン

【上下方向の調整】

リアカメラ表示エリアを上下方向に調整します。

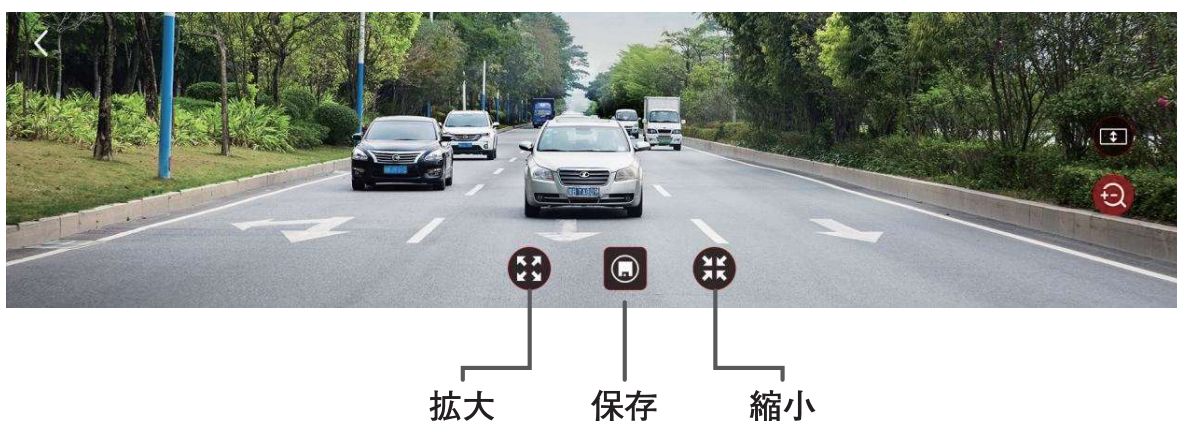
- ・画面を見て上下ボタン(▼▲)を押して調整する。
- ・調整完了後に、真ん中の「保存」ボタンを押して設定を確定する。



【拡大縮小】

リアカメラ表示エリアを拡大縮小します。

- ・画面を見て「拡大」「縮小」ボタンを押して調整する。
- ・調整が終わったら「保存」ボタンを押して設定を確定する。

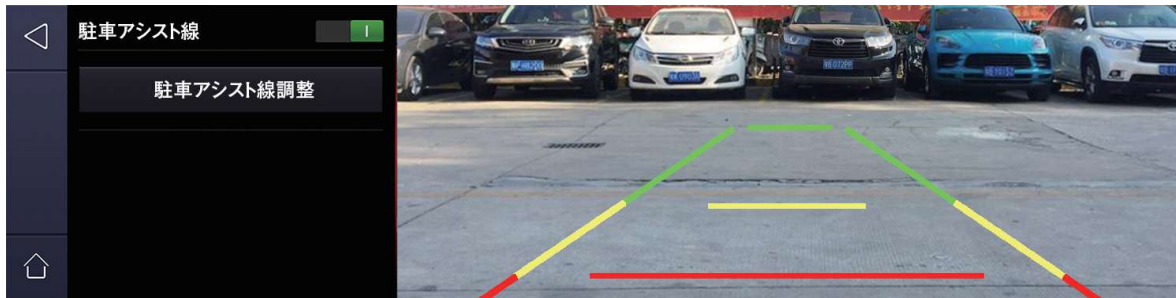


システム設定

● リバース連動機能設定について

駐車アシスト線: 駐車アシスト線の「表示」/「非表示」を設定します。

駐車アシスト線調整: 駐車アシスト線の表示範囲を調整してください。



駐車アシスト線: OFF

リアカメラ映像

走行中

バックギア入力時

駐車アシスト線: ON

リアカメラ映像

走行中

バックギア入力時

● 駐車アシスト線調整方法

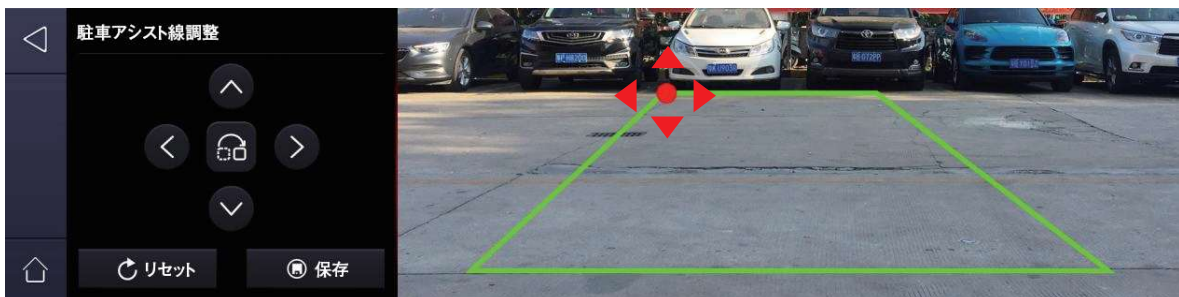
1. カメラ画面に「駐車アシスト線」表示範囲の枠が表示されます。

2. 画面を見て調整したいガイドポイントを順番に矢印ボタンで移動(調整)します。

- ・ 調整中のガイドポイントは赤●カーソルで示されます。
- ・ 左右上下ボタン(◀▶▼▲)を押して赤●カーソルを移動させて検知範囲エリアを調整します。

※ 赤●カーソルは中央ボタンを押すと時計回りに位置が変わります。

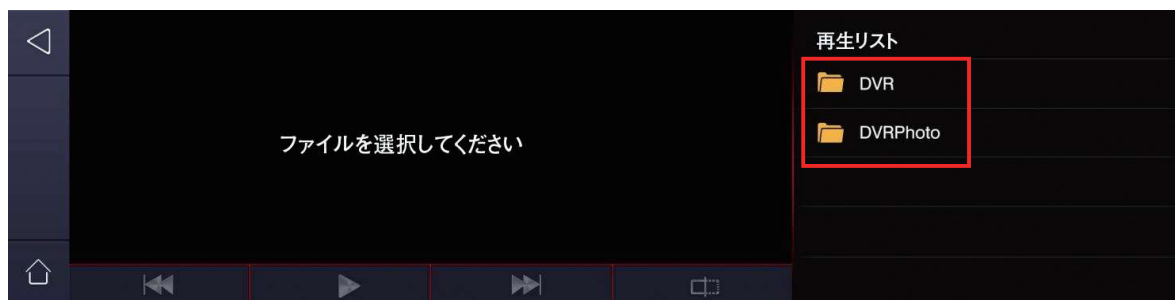
3. 調整完了後に、「保存」ボタンを押して「駐車アシスト線」の表示範囲を保存します。



再生モード

メインメニューで「再生」ボタンを押して、【再生画面】に移動します。

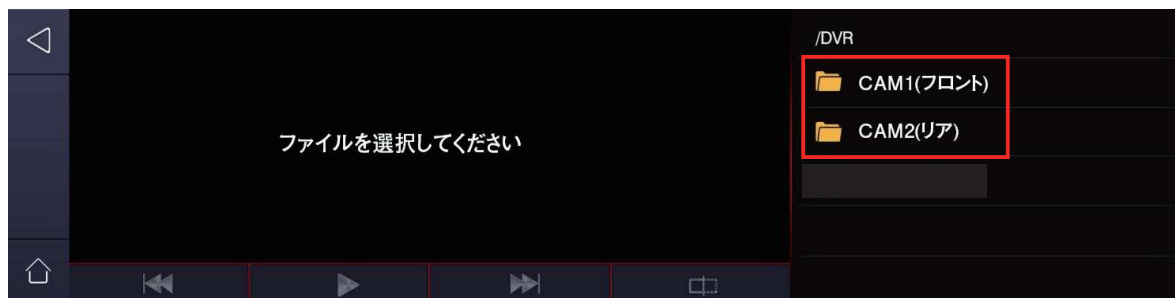
1.確認したいデータのフォルダを押します。



DVR…通常録画ファイル及びロックファイルが入っています。

DVRPhoto…静止画が入っています。

2.確認したいカメラを選択します。



3.選択されたカメラの映像/静止画一覧が画面の右側に表示されます※映像再生画面の右上の「通常録画」ボタンと「緊急録画」ボタンを押して、保護フォルダと非保護フォルダを切り替えることができます。



再生モード

4.確認したい映像/静止画をタッチして再生を開始します。



アイコンの説明

- | | | |
|-----------|--|---|
| ①…前の映像に移動 |  常時録画 |  緊急録画(駐車監視) |
| ②…再生/一時停止 |  緊急録画(手動) |  タイムラプス録画(駐車監視) |
| ③…次の映像に移動 |  緊急録画(走行) | |
| ④…鏡像/正像切替 | | |

映像/静止画を保護する

- 1.非保護フォルダにて、保護したいファイルをタッチします。ファイルをタッチすると、ファイル名が緑色に変わります。
- 2.「鍵」をタッチすると、確認メッセージが表示されますので「OK」を押して保護完了です。



映像/静止画を削除する

- 1.非保護フォルダにて、保護したいファイルをタッチします。ファイルをタッチすると、ファイル名が緑色に変わります。
- 2.「ゴミ箱」をタッチすると、確認メッセージが表示されますので「OK」を押して削除完了です。



パソコンで再生する

microSDカードを本体から抜き取りパソコンに接続してください。

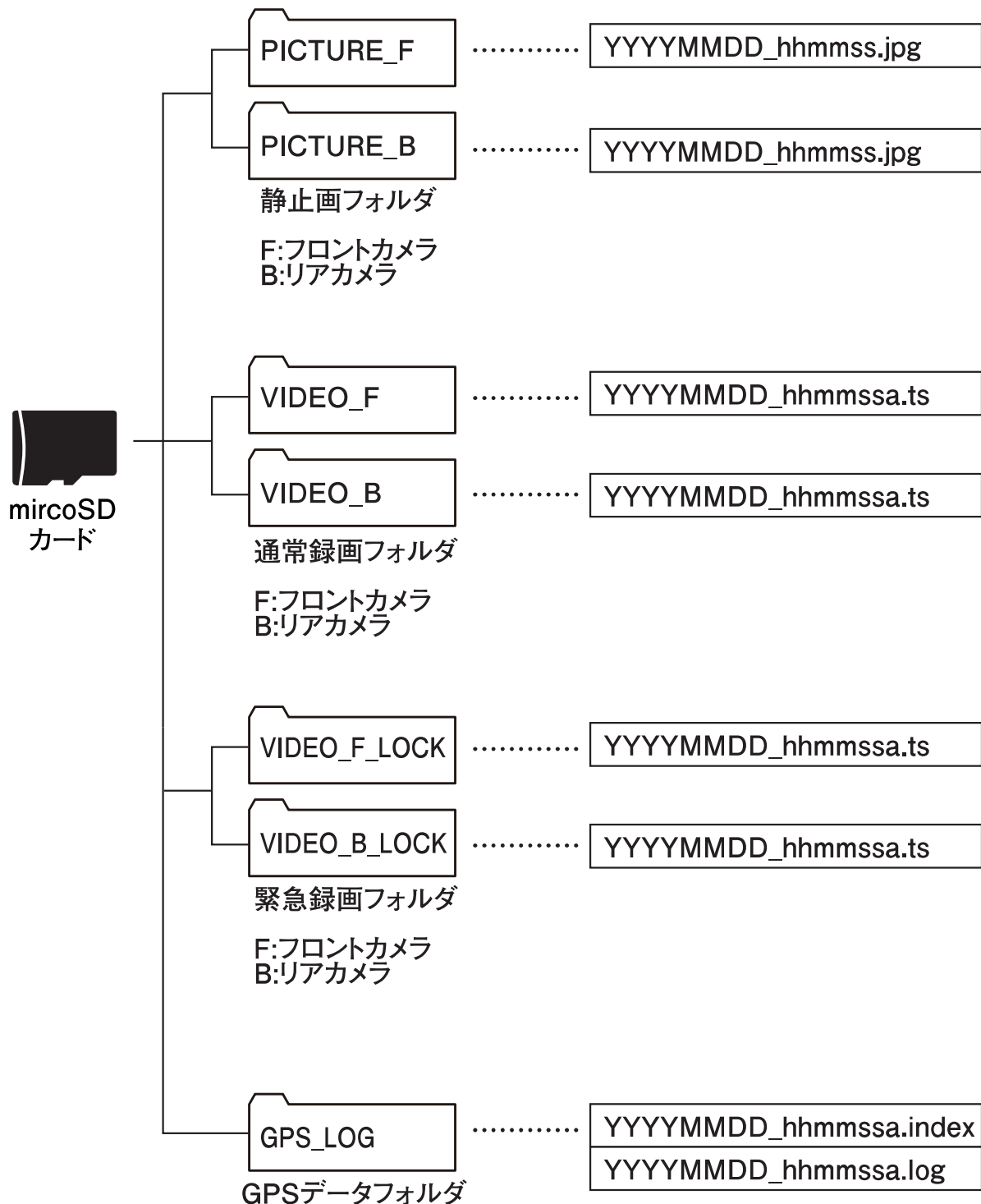
映像ファイルは.ts方式で記録されています。

専用ビューワソフトやパソコンの動画再生ソフトで再生してください。

※音声がでない場合は他の動画再生ソフトを使用するかパソコンや動画ソフトの設定、コーデックなど確認してください。

● フォルダ/ファイル構成

microsdカードに録画または静止画ファイルは、項目ごとのフォルダに保存されます。



パソコンで再生する

- ファイル名称は以下の内容で保存されます

録画を開始した

YYYYMMDD_hhmmss a .ts

年 月 日 時 分 秒

a:  常時録画

b:  タイムラプス録画(駐車監視)

c:  緊急録画(手動)

d:  緊急録画(駐車監視)

e:  緊急録画(走行)

.ts: 録画ファイル

.index: システムデータ

.log: GPSデータ

静止画を撮影した

YYYYMMDD_hhmmss .jpg

年 月 日 時 分 秒

※時分秒は本体に設定された日時情報をもとに記録されます。

例) 2026/01/29 14:29:35に通常の録画を開始したリアカメラの通常録画フォルダ名と常時録画ファイル名

VIDEO_B

20260129_142935a.ts

20260129_143035a.ts

20260129_143135a.ts

20260129_143235a.ts

⋮

専用ビューワーソフトについて

専用ビューワーソフトを利用することで、本機で録画した映像の確認をパソコンでおこなうことができます。

専用ビューワーソフトと専用ビューワー取扱説明書は、弊社ホームページのソフトウェアページからダウンロードします。

<https://maxwin.jp/datadownload/softwear/>

※専用ビューワーソフトの使い方は、「dvr_video_player_取扱説明書.pdf」をご覧ください。



■オープニング画面変更機能

本機能を使うことで、起動時のオープニング画像を変更することができます。指定サイズの画像をmicroSDカードに保存し、本体に取り込むことでご利用いただけます。オリジナルの画像データをオープニング画像として使うには、以下の操作が必要です。

1、オープニング画像を準備する。

以下のフォーマットを参照してオリジナルの画像を準備してください。

※このフォーマット以外のファイル名・ファイル形式は認識されません。

●画像形式:png

●サイズ:1920(x)×480(y) ドット

●色深度:24bit

●ファイル名と拡張子:logo.png

●最大ファイル容量:約100KB

※png形式でファイル容量を100KB以下にいただくことが困難な場合は、JPEG形式(拡張子:「.jpg」)のファイルとして100KB未満に保存してから、拡張子を「.png」へ変換することができます。

2、オリジナルの画像ファイルをmicroSDカードに保存する。

※SDカードのフォーマット形式を「FAT32」でご使用いただけますようお願いいたします。

※SDXCのSDカード(64GB～256GB)は本体でフォーマットしてからご使用ください。

3、本機が電源オフの状態で、microSDカードを本機に挿入する。

4、本機を起動させると、オープニング画像の設定が完了する。

5、オープニング画像設定で利用したmicroSDカードをフォーマットする。

(またはmicroSDカードを取り外して、パソコンでオープニング画像ファイルを削除する)。

【オープニング画像の初期化(リセット)方法】:

①オープニング画像設定で利用したmicroSDカードをフォーマットします。(またはmicroSDカードを取り外して、パソコンで画像ファイルを削除します)。

②本機のメニューの「全設定初期化」を実行することで、オープニング時の画面表示が初期化されます。

その他

■車検について

MAXWINホームページにて本製品の衝突試験レポートを公開しています。

車検時に検査官より本製品が道路運送車両の保安基準を満たしていることの確認を求められた場合は印刷して提示をお願い致します。

製品仕様

モニター	10.88インチIPS液晶(1920×480pixels)
使用温度範囲	-20℃～70℃
録画解像度	1080P(1920*1080)
フレームレート	フロントカメラ27.5fps、リアカメラ60fps
画角	フロントカメラ 水平:110° リアカメラ(車外設置タイプ) 水平:112° リアカメラ(車内設置タイプ) 水平:85°
防水仕様	リアカメラIP69K(MDR-A003Aのみ)
録画モード	ループ録画(1分)
記録方式	常時録画/イベント録画/駐車監視録画
動画ファイル形式	.TS
メモ리카ード	microSDカード(最大256GB Class10必須)
電源	DC 12V

※仕様はお客様に予告なく変更になる場合があります。

よくある質問

■故障かな?と思ったら

次の一覧から該当する症状、または表示されるメッセージを見つけて対処してください。
解決方法を見つからない場合は、お買い上げの販売店または当社サービス窓口へ
ご相談ください。

ご質問	回 答
電源が入らない	ヒューズが入っていないか断線しています。 ヒューズを入れるか原因を確かめてからヒューズを交換してください。 お買い上げの販売店にご相談ください。
記録したはずの映像がない	microSDカードの記録可能時間の上限を超えると、古い映像から上書き保存していきます。必要に応じてmicroSDカードのデータをパソコンに保存してください。
LED信号機のライトが確認できない	映像の記録周期とLED信号機の周期によって、一瞬信号機のライトが消えて見えることがあります。 信号機が確認できない件については、弊社は一切責任を負いません。
microSDカードに記録できない	microSDカードに異常がある場合があります。microSDカードのフォーマットを行ってください。 microSDカードは書き込み回数などの寿命があります。フォーマットを行っても異常がある場合は新しいカードに交換してください。
頻繁に衝撃録画を行う	Gセンサー感度が良すぎて衝撃を感知しています。 感度を低く設定してください。(高→低)
時計がずれている	期間を開けて使用する場合は日時表示がリセットされることがあります。 日時を手動で設定し直してください。
画面がフリーズする	microSDカードの書き込みエラーが発生し、本体システムに異常が発生した可能性があります。microSDカードを交換してください。 ※電源ボタンを10秒以上押し続けると強制的に電源をOFFにすることができます。 ※microSDカードの再フォーマットをお試ください。それでも不具合が見受けられる場合は、別のカードの使用をお試ください。 ※安定した動作のために、国内正規品のmicroSDカード(Class10以上)推奨となります。

ファームウェアについて

ファームウェアの更新で不具合修正や機能改善する場合があります。以下のURLにて最新のファームウェアを公開いたしますので、随時チェックしてください。

最新ファームウェアはコチラ



<https://maxwin.jp/datadownload/firmware/>

商品のアフターサービスに関するお問い合わせは、
お買い求めの販売店またはMAXWINホームページまで
お問い合わせください。

<https://www.maxwin.jp/>

商品保証書

本書は製品購入日から本書に定める保証期間内に故障が発生した場合に本書記載内容で無償修理する事を約束するものです。修理の際に必ず本保証書をご提示の上、ご依頼ください。

《無償修理規定》

■取扱説明書の注意事項に従い、かつ正常な使用状態で故障した場合に無償保証いたします。

無償修理をご依頼になる場合には、ご購入の販売店に本書を添えてご依頼ください。

■保証期間内でも次のような場合には有料になります。

- ・使用上の誤り及び過失による故障及び損害
- ・分解、改造及び保証シールが破れている場合
- ・火災、地震、風水害、落雷、その他天変地異、塩害、ガス害、異常電圧、指定外電源（電圧・周波数）などによる故障及び損害
- ・購入後の移動、落下あるいは運送などによる故障及び損害
- ・本保証書のご提示がない場合
- ・本保証書に購入年月日、お客様氏名、購入代理店の記入がない場合、あるいは保証期間切れ、字句を書き換えられた場合
- ・消耗品、付属品などの交換による故障及び損害

■本製品は故障などに伴う二次的損害に対する保証はいたしません。

■本書は日本国内のみ有効です。

■本書は再発行いたしません。大切に保管してください。

※修理ご依頼の場合、データ検索のため、以下の欄にご購入時に記入したお客様データをご記載ください。

〈お客様氏名〉 様	〈故障内容〉※具体的にお書きください。
〈電話番号〉	
〈ご住所〉	
〈販売店〉	〈購入日〉

MAXWIN
昌騰有限会社

商品についてのお問合せは
購入された販売店または

support@maxwin.jp
へお問い合わせください。

MAXWIN